

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』 授業での活用事例

中学校編

総合的な探究の時間

- P4・・・白浜町立日置中学校 対象：1～3年生
総合的な学習
- P6・・・山形県立東桜学館中学校 対象：2年生
未来創造プロジェクト
- P8・・・船橋市立飯山満中学校 対象：1年生
SDGs 探究学習
- P10・・・鎌倉学園中学校 対象：3年生
「SDGsを通じて日本を知る」
「世界の課題に対してアクションを起こす」
- P12・・・松本秀峰中等教育学校 対象：1年生
関心のある分野の追求とSDGs
- P15・・・愛知県刈谷市立朝日中学校 対象：3年生
持続開発可能な社会へ向けて私たちができること
- P17・・・府中町立府中中学校 対象：1年生
SDGs職場探訪2021
- P18・・・府中町立府中中学校 対象：1・2年生
ぼくのわたしのSDGs宣言
- P20・・・大阪府守口市立第一中学校 対象：2年生
居心地のいい地域・国～SDGsから考える～
- P22・・・すさみ町立周参見中学校 対象：1年生
「ふるさとを知る」
- P24・・・浜松市立江西中学校 対象：1年生
浜松の今を見つめて
- P30・・・常翔啓光学園中学校学校・高等学校 対象：2年生
SDGs アクションを発表しよう
- P32・・・田辺市立中芳養中学校学校 対象：1・2年生
日常の中で感じる課題を解決する
- P34・・・敦賀市立角鹿中学校 対象：1年生
1年生SDGsプロジェクト 敦賀のまちづくり
- P36・・・稲城市立稲城第六中学校 対象：1～3年生
SDGs プロジェクト学習（全18時間）

- P38・・・福島県郡山市立小原田中学校 対象：3年生
30年後の社会のために現在の社会とどう関わるか
- P40・・・和歌山県田辺市立新庄中学校 対象：3年生
新庄未来学
- P42・・・英数学館中学校 対象：1年生
SDGs Poster
- P44・・・京都市立衣笠中学校 対象：1年生
わがまち京都の未来を創造する
- P46・・・愛知県みよし市立三好中学校 対象：1年生
1年生の総合的な学習の時間を整理する。
～防災・福祉学習をまとめよう～
- P49・・・八風中学校 対象：3年生
好きから始まるSDGs
- P52・・・富山県富山市立楡原中学校 対象：1年生
身近なSDGsと私たちの関わり
- P54・・・富山県富山市立楡原中学校 対象：2年生
地域社会と自然～「住み続けられるまちづくり」の工夫とは～
- P56・・・茨城県立太田第一高等学校附属中学校 対象：2年生
中高合同探究活動「未来の仕事を考える」

道徳・探究

- P58・・・山手学園中学校 対象：1年
課題解決のために
- P60・・・大阪府門真市立第七中学校 対象：3年
「つくる責任 つかう責任」個人でできること
- P62・・・川崎市立枡形中学校 対象：3年
道徳「もっとわかりあいたい」

社会科

- P64・・・和歌山県田辺市立龍神中学校 対象：3年
バター戦争・アニマル大陸の危機を救おう
- P66・・・鳥取大学附属中学校 対象：2年
SDGsの視点で世界や日本の諸問題について考える
～時間・空間認識を育てる探究的な学習の発展～

社会(地理的分野)

P68・・・鳥取大学附属中学校 対象：2年
鳥取県の未来を考える

美術

P70・・・宮城県栗原市立栗駒中学校 対象：3年
社会に目を向けよう

英語

P72・・・岡山県津山市立北陵中学校 対象：2年
My idea for SDGs

技術・家庭科（家庭分野）

P74・・・山形大学附属中学校 対象：3年生
SDGsアクションプラン

理科

P76・・・滋賀県立河瀬中学校・高等学校学校 対象：中学3年
これからの暮らしとSDGs

P78・・・東京都立南多摩中等教育学校 対象：2年
持続可能でよりよい世界を目指して

理科・社会

P80・・・板橋第三中学校 対象：3年
理社合同で行う「環境と社会」

特別支援学校

自立活動・道徳

P82・・・会津若松市立第二学校 対象：1・3年
ぼくたちのSDGs

P84・・・八重山特別支援学校 対象：中学1/2年（小学4年）
持続可能な街を考えて作ってみよう

総合

P86・・・埼玉県立熊谷特別支援学校 対象：1～3年
「SDGs」を調べてまとめよう

特別の教科 道徳

P88・・・富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 対象：1～3年
SDG12「食育 ～命をいただくを考える～」

総合的な学習

学校名: 白浜町立日置中学校 名前: 前久保 圭太

対象	全学年	単元名
科目	総合的な学習	総合的な学習
時間	4時間	目標
参考資料	SDGsアイデアブック	その1 ◎地域の課題、良いところなどを考え、テーマを設定することができる。 その2 ◎テーマに応じて、調べ方やインタビューの仕方について学ぶ その3 ◎調べたことをもとに考える。自分と地域との関わり、地域と世界との関わり その4 ◎考えをまとめ伝え合う

期待できる学習効果

- ・その1 情報活用能力やコミュニケーション能力の育成が図れる。
- ・その2 自分ごととして地域や社会、世界との関わりを考えることができる。
- ・その3 学びに向かう力の育成。(動機付け)
- ・その4 自分の考えを持ち、自分から行動できる態度を育てることができる。

授業内容

- ① SDGSについて知る
・7/14 SDGS のコンセプト 映像、SDGSゲーム
- ② 学ばせる ヒト・コト・モノ
1) 現状の地域の良さ・課題・強み・弱み・資源を発見 → テーマ設定
内容(歴史・経済・観光・福祉・産業・行政・)
2) 調べる 問いを立てる
(インタビュー データ集約)
3) これからの地域、SDGsとの関わり(SDGsアイデアブック)、これからの自分について考える
(考察 アウトプット 質疑・協議)

キーワード

自然、観光、経済、歴史(サイクリングロード、テレワーク、IT企業、ジオパーク、防災、史跡、白浜空港、)
など 掘ったらおもしろいこと

- ③ 今後の方向
活動の整理 さらなる疑問の探究 来年度の活動?
- ④ 発信
今年度 インスタグラム
来年度 意見を知らせていく 白浜町議会など

総合的な学習

学校名: 白浜町立日置中学校 名前: 前久保 圭太

授業内容2

冊子を作り、10グループに分かれて、調べ学習を行いました。

日程	時間数	活動内容	詳細 やること	冊子ページ
9月10日	1時間	訪問場所 質問内容決め	・訪問場所、日程、質問内容、取りたい写真等を決める ・アポ取りする生徒を決める。	p5~9
9月28日	2時間	事前学習 訪問の準備	・アポ取り ・質問内容の整理 ・とりたい写真を決めておく ・調査先の事前学習	p6~11
10月5日	2時間+ 放課後	訪問 or 準備	・訪問 ・訪問にあたっていない班は学校で訪問準備、発表準備をすすめる。	p12~15
10月16日	2時間+ 放課後	訪問 or 準備	・訪問 ・訪問済みの班は学校で発表準備をすすめる。	p12~15
10月19日	2時間	発表準備	発表準備 ・模造紙にまとめる (調べたテーマ、分かったこと、SDGsとの関連、自分たちができること、など写真を使いながらまとめる。)	p12~p15
10月29日	2時間			p12~p15
11月12日	2時間	プレ発表会	文化祭に向けての事前発表会 発表内容について、意見交流。	
11月16日 文化祭	2時間	発表	グループの発表 その他のグループも発表や写真を展示。	
11月26日	2時間	振り返り来年度 への改善	調べたことを生かして、来年度以降、何ができるかを考える。	
?	2時間	引継ぎ		

子どもたちの反応・感想

◆総合の時間を通して、自分の中で変わった部分や成長したところ、身についた力は？
身の回りの仕事について理解したり、社会との関わりについて興味を持つことができた。知りたい、調べたいと思う気持ちを持つことができた。日常の自分たちの課題に気づくことができた。言葉遣い、礼儀・地域や社会への見方が変わった。意見を持つ・考える力・アイデアを出す力 想像力聞く力・話す力 伝える力 行動力 意見をまとめる力 客観力

◆生徒感想

- ・SDGsとサイクリングの関係がわかった。サイクリング体験などをして楽しかった。
- ・調べたいところを考え実際にインタビューに行った。何を調べようか考えるときは少し止まってしまったけど意見を出し合って決めることができました。インタビューに行ったときも楽しかった
- ・白浜空港はいろいろな工夫をして観光客がくるんだなとわかったし今の現状がわかった。・IT企業とオンラインで会議をしたりその場所に行ったりしてたくさんのことがわかったし、文化祭で発表できたのでよかった。
- ・日置にこんなにもたくさんジオパークがあるのだと初めて知りました。だからこの素晴らしいジオパークを守っていくために積極的にゴミ拾いをしたりたくさんの人にジオパークについて知ってもらいたいと思いました。地域には、いいところもたくさんあるけれど。問題点もいろいろあると思いました。



未来創造プロジェクト

学校名: 山形県立東桜学館中学校 名前: 木村 聡子

対象	中学2学年	単元名
科目	総合	2学年テーマ: やまがたの未来をデザイン(よりよく)する
時間	55	目標
参考資料	アイデアブック等	やまがたに対する誇りと愛着を育みながら、事象を総合的に追及する方法を身につけ、様々な視点から主体的に課題を見だし、多様な他者と協働して課題を解決する探究活動に進んで取り組む能力と態度を育てるとともに、自己の生き方や社会参画の在り方を考えることができるようにする。

期待できる学習効果

- ・その1: 気づき、共感、発見した問題について、デザイン思考を用いて解決策を考案することができる。
- ・その2: 自分自身が社会の一員であることを自覚し、自分が社会のためにできることを考えることができる。
- ・その3: 関係者や専門家の意見を取り入れながら、自分の考えを修正したり、深めたりして、社会とのつながりを感じることができる。

授業内容

本校では年間を通し、「未来創造プロジェクト」と称して、総合学習を進めている。中学1年生では、イノベーションメソッドであるデザイン思考を学び、自分たちの身近なところから課題を見出し、探究活動を行っている。中学2年生では、中学1年生同様に、デザイン思考を活用して、社会や地域へと課題の視点を広げ、探究活動を行っている。2学年の課題設定時では、SDGsの観点からも多角的に考えられるように工夫して取り組んだ。

「未来を変える目標SDGsアイデアブック」を生徒それぞれが読み、自分の気になったアイデアについて発表し合った。また、新聞記事をグループで読み合い、関係するSDGsの17の目標の付箋を貼るワークショップを行った。このことにより、他者が感じ、考える視点を獲得することで、自分の考えを振り返り、一つの事象でも、SDGsの17の目標が複雑に絡み合い、関係していることを学ぶことができた。

また、今年度は、授業とは別に、生徒会編集委員会企画で、山形新聞社の一学級一新聞事業にて提供される新聞を活用し、SDGsの観点から記事を読み発表する活動を行った。全学級で輪番で担当の生徒一人を決め、毎日朝の会で行った。



未来創造プロジェクト

学校名: 山形県立東桜学館中学校 名前: 木村 聡子

授業内容2

SDGs演習と題して、SDGs for School認証エデュケーターで、山形版SDGsカードゲーム考案者の佐藤朋子さんをお招きし、SDGsの視点から地元、山形の問題を考えた。ゲームを通して楽しく深く、問題を多面的、多角的に学ぶことができた。

本校では、1年間の探究学習の成果をグループや個人で2月に発表している。探究内容の一例としては、SDGsの③「すべての人に健康と福祉を」に着目して、山形県の高血圧・脳梗塞の患者数が日本一であることから、塩分の過度な摂取を防ぐために探究活動を行ったものがある。ナトリウムの摂取を抑えるために関係してくる栄養素であるカリウムに注目し、カリウムを多く含む食品の摂取を提案した。近くのスーパーにカリウムの含有量の多い食品を紹介するPOPを作成し、置かせてもらったというものがあった。



子どもたちの反応・感想

【未来創造プロジェクト2学年 振り返りアセスメント生徒感想より】

- ・⑧「働きがいも 経済成長も」の点からみると、山形県には、まだまだ経済成長できる要素がたくさんあり、それらをどう広めていけるかがうまくできれば、まだまだ経済成長が期待できると思った。(探究テーマ: 山形県を楽しく知ってもらおう)
- ・私は、今回の探究で、SDGs③①に着目して行いましたが、よりSDGsを意識して考えたり、その行動が何につながるのか考えたりできるようになりました。
(探究テーマ: 地域のつながりで少子化を解決しよう)
- ・実際にプロトタイプを改良して行って、少しでも良いものになるように実験を行うことができた。また、後付けにはなったものの、りんごという特産物を利用することで、食品の無駄を減らすことや認知度アップにつながることを考えることができてよかった。
(探究テーマ: 山形の特産物で美容商品をつくる!?)

SDGs探究学習

学校名: 船橋市立飯山満中学校 名前: 辻 史朗

対象	中学1年	単元名
科目	総合学習	環境学習
時間	20時間	目標
参考資料	アイデアブック Social Change First	船橋市を日本一優しい都市にする方法を考える

期待できる学習効果

- ・SDGsとは何かを学習できる
- ・SDGsを自分事とすることができる
- ・地域に視点を広げることができる

授業内容

- ①動画やワークシートを利用し、SDGsについて学ぶ。
- ②「SDGsの視点から、船橋市を日本一優しい都市にするには」という課題を生徒に提示し、探究する。
- ③仮説を検証するためのフィールドワークにでる。
- ④調査結果などをまとめる。
- ⑤クラス内で発表を行い、各クラスの代表を決める。
- ⑥他県(山口県)の中学校とオンラインで発表会を実施。
- ⑦全校集会で他学年に発表する。

SDGs探究学習

学校名: 船橋市立飯山満中学校 名前: 辻 史朗

授業内容2

子どもたちの反応・感想

今回の課題は...

SDGsの視点から、



**船橋市を日本一
優しい都市にするには！**

「SDGsを通じて日本を知る」

学校名：鎌倉学園中学校 3年

対象	中学3年	単元名	世の中を知る・課題解決に向けて行動する
科目	道徳・総合学習	目標	その1 日本国内でのSDGs実践例を知る。 その2 課題解決に向けて具体的に行動を起こす。
時間	4時間(導入のみ)		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・SDGsについての理解を深めることができる。
- ・グループで協力しながら課題解決に向けて具体的な行動を実践できる。
- ・SDGsを通じて世の中の様々な問題に関心を持ち、自分ごととして捉えることができる。

授業内容

2019年度に実施した学習

- ①新聞を利用して「アマゾンの森林火災問題」を考える。(SDGs導入)
- ②「海洋プラスチック問題」を題材に身近なところから課題解決に向けた行動を起こす。
- ③「世界のゴミ問題」を題材にグループワークを実施し、学校全体で取り組める行動を考える。
- ④上記①～③のまとめとして神奈川県内のSDGs実践例を調査し、学校全体に広めるためのポスター制作。

上記学習内容を経て、2020年度はさらなるSDGsへの理解と将来の行動へのきっかけ作りとして「SDGs探求チーム」を結成し

A 個人でSDGsの17目標の中から取り上げたい目標を挙げ、各目標に沿った具体的課題をレポートにまとめ、学園祭でオンライン発表を実施した。

B 最終まとめとして日本国内でSDGsを実践している企業・自治体を調査し、「鎌倉学園アクションブック」を作成した。

「世界の課題に対してアクションを起こす」

学校名: 鎌倉学園中学校 3年

授業内容2

2019年度に実施した上記学習内容から、実際に解決したい地球規模の課題を生徒自らが取り上げ、その中から特に関心の多かった以下の4つの課題解決に向けたプロジェクトチームを発足し、行動を起こす。

- ①ベトナムの貧困地域の子供達への支援(物資支援や学校の修繕支援など)
- ②森林火災などで危機に瀕しているコアラの支援
- ③東南アジア(ベトナム周辺)のマングローブ生態系の回復に向けた支援
- ④ビーチクリーン(湘南エリアを中心とした海岸清掃活動、廃プラスチックごみ削減に向けた啓蒙活動)

上記①～④に関して、

- A 自分たちが解決したい課題を紹介するプレゼン動画を作成。
- B 各プロジェクトチームで課題解決に向けた具体的な行動を起こす。
- C 今年度内の活動報告をまとめ「鎌倉学園アクションブック」を作成。

子どもたちの反応・感想

中学2年次の初めはSDGsの名前すら知らない生徒がほとんどでしたが、回を重ねるごとにSDGsに対する関心・興味が増していくのが感じられました。

学年全体で「今自分たちにできること」をグループごとにプレゼンした際には、学年全体で取り組んでいこうという前向きな発言をする生徒もあり、世界の様々な地域で起きている問題を自分ごととして捉えらえる生徒が増えてきたことを実感しました。

3年生に進級する頃には課題解決に向けて、実際にベトナムの貧困問題に関して活動しているNPO法人の代表の方とビデオミーティングを行い今後の行動を考えたり、湘南エリアで海洋ゴミ問題の解決のために活動する財団に伺い、話を聞き実際にビーチクリーン活動をするなど具体的な行動を起こす生徒が増えてきました。

今年度はコロナウィルス感染拡大の影響もあり、活動に制限があったため、次年度以降も継続して活動が続けていければと思います。

関心のある分野の追求とSDGs

学校名: 松本秀峰中等教育学校 名前: 梅田 大心

対象	1学年(中1)	単元名	関心のある分野の追求とSDGs
科目	総合学習	目標	1 レポート作成を行うことで、調べた情報を適切にまとめる力を伸ばす。 2 プレゼンを行うことで発信する表現力を伸ばす。 3 SDGsアイデアブックを通して、SDGsの取り組みについて知る。 4 SDGsと自分の興味のある分野とのつながりを考える。
時間	12時間+α		
参考資料	アイデアブック 図書館の本		

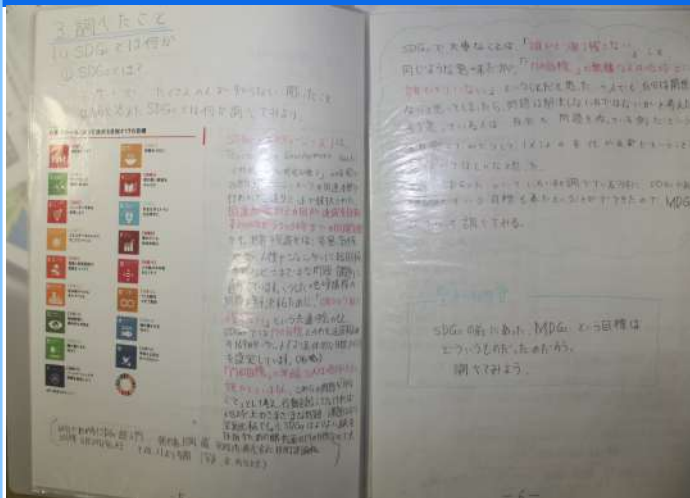
期待できる学習効果

- ・コンクールに応募する中で、関心の幅が広がるだけでなく、レポートの書き方や、文献の引用の仕方も身に付けることができる。
- ・プレゼンを行うことで、多くの聴衆の前で発信する力を養うことができる。
- ・SDGsアイデアブックを活用することで、世界の幅広い取り組みを知り、興味の幅が広がるきっかけとなる。

授業内容

1. 興味関心のある分野について図書館の本などを用いて調べ、「図書館を使った調べる学習コンクール」に応募する。(SDGsという言葉は伝えず、生徒の関心に沿って進めた。)
緊急事態宣言解除後の5月中旬に、テーマの設定を行い、学校や地域の図書館を活用して自分のテーマと関連する本を探し、多くの本を読みながらまとめた。6月中旬に口頭でテーマの紹介と中間報告、夏休みの計画を報告し、夏休み中に宿題として取り組ませた。テーマに応じて、フィールドワークに出掛けたり、専門家の方に取材を行ったり、様々な取り組みが見られた。2学期の最初に清書をさせ応募の準備を行った。
2. まとめた内容について、プレゼンを実施する。(発表5分、質疑応答2分)
パワーポイントを用いて一人ひとりがプレゼンの準備を行い、1グループ20名程度で発表会を4時間かけて行った。
3. SDGsアイデアブックを一人ひとりが活用して、取り組み全体を読んだ感想と自分の興味のある分野についてまとめた。最後に、グループで意見の交流を行った。
4. 調べる学習の内容とSDGsの活動との接点を見つけ、今の自分たちにできることを考え、ワークシートにまとめた。

授業のようす



「図書館を使った調べる学習コンクール」に応募したレポート

プレゼンのようす



アイデアブックを活用した活動のようす



子どもたちの反応・感想

1 「図書館を使った調べる学習コンクール」への応募

私は、「図書館を使った調べる学習コンクール」に応募するため、食物アレルギーやアナフィラキシーについての本を10冊くらい読んだ。そのような本には、私が知らなかった事や疑問に思っていたことが書かれていた。私は、新書などの説明文を読むことが好きではなかったが、この課題を通して多くのジャンルの本を読むことの大切さ、面白さを知ることができた。今後は、さらに知識を増やすためにも多くの本を読んでいきたい。

2 プレゼンについて

5分という短い時間で、自分が調べた膨大な情報量をまとめることは非常に難しく感じた。また、仲間の発表を聞いて、原稿をただ読むだけではなく、聴衆に向けて問いかけたり、視線を上げて発表したりする姿をみて、今後の発表に生かしていきたいと思った。

3, 4 SDGsアイデアブックの活用

人間以外の生物たちがいないと、人間は生きていけない。だいたい、生物の祖先をたどると、一番最初はみんな同じであると思う。どうすれば絶滅せずに生き残れるのかを追求したら、みんな違う姿になってただけであって、地球に住んでいる生物は仲間だから、もう少し人間以外の生物を尊重してほしい。そうすれば、ずっと先も美しい自然を残せると思う。

日本人はSDGsを知っていても、実行していることが少ないのではないかと思った。ガイドブックの最後に協賛企業の紹介があった。どれもみなよく聞く大企業だった。最近少しずつ色々な製品がSDGsに配慮されてきている気がする。志ある人や企業はすでに行動を変えている。一番変化がないのは、私たちなのかもしれない。私には大きな改革はできない。だからと言って、それに甘えて努力をしていないのではないかと思った。ガイドブックを通して、身近でできそうな小さな行動を頑張って、SDGs目標達成に貢献できたらと思う。

1つの目標を達成することで、他の様々な目標も同時に解決できることが分かった。アイデアブックに載っていた取り組みの中では、自分も協力できそうなことや、多くの企業が取り組んでいけると良いのになと思うことがあった。SDGsの取り組みに関して、自分が協力できるアイデアを考えていきたいと思った。まずは、本で学んだことを家族に伝えたり、私自身も広い視野で物事を見て、考える習慣を身に付けたりしていきたい。

持続開発可能な社会へ向けて私たちができること

学校名:愛知県刈谷市立朝日中学校 名前:馬淵拓夢

対象	3年生	単元名	持続開発可能な社会へ向けて私たちができること
科目	総合的な学習	目標	その1 SDGsとは何か理解する。 その2 SDGsの17の目標にかかわる国内外のさまざまな課題や具体的な取組を知る。 その3 自分が興味・関心がある目標を1つ決め、そのテーマに沿った情報収集を行い、解決策を考える。
時間	3時間		
参考資料	各社新聞紙 アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 アイデアブックの使用により、興味・関心を高めながらSDGsの概要の理解をすることができた。
- ・その2 アイデアブックの使用により、SDGsの17の目標を簡潔に理解することができ、国内外のさまざまな課題について考えるきっかけとなった。
- ・その3 自分が関心を寄せる課題が明らかになり、その視点で国内外の出来事について情報を収集し、問題意識をもつことができるようになった。

授業内容

第1時では、提供していただいたSDGsの教材を使って、SDGsの概要を理解するきっかけとしました。最近では、「SDGs」という言葉を色々なところで耳にすることが多いですが、ほとんどの生徒は何を指すのか理解していませんでした。この教材によって生徒たちは、SDGsの17の目標にかかわる国内外のさまざまな課題や取組について具体的に知ることができました。そこで、興味・関心がある課題や取組、解決策を考えたいと思った目標を入り口にして、「今後の社会を、持続可能でよりよいものとするためにはどうしたらよいのか」を考えるように課題提示をしました。

第2・3時では、自分が関心をもつ目標を一つ決め、そのテーマに沿った新聞の切り抜きを行いました。生徒たちは、Black Lives Matter運動を中心とした人種差別問題やコロナ禍における医療問題、教育格差、国際問題、自然災害をテーマにした環境保全などの新聞記事を集め、集めた記事について気になったところへマーカーで印をつけたり、感想を書き加えたりして、自分なりの学習のまとめとしました。記事集めをする中で、「この記事は(目標の)3番だ」「この記事は1番と4番の両方だ」という呟きをする生徒が多く見られました。生徒たちがSDGsの17の目標を理解し、国内外で起きている出来事を自分たちのより良い未来のための課題として実感していると感じました。

本実践を通して、生徒たちは言葉や知識としてなんとなく知っていた「SDGs」を、より現実的な問題として捉え、日本社会や世界で起きている出来事を見直すきっかけになったように思います。

今後の課題としては、SDGsの17の目標を解決するための取組をいかに自分事として考えさせ、参加させるかだと感じました。

持続開発可能な社会へ向けて私たちができること

学校名:愛知県刈谷市立朝日中学校 名前:馬淵拓夢

まとめの様子(生徒の作品)



子どもたちの反応・感想

授業の振り返りより

・16番に関する記事を集めました。目標を達成するためには、世界全体で取り組んでいく必要があると思いました。世界では、紛争や人権問題など平和的で公正ではないことがたくさんありました。日本や一部の国で核兵器を禁止したり、戦争をしないことを国としてやっても、どこか一つの国が核兵器を所持していたり、戦争に参加したりしたら、課題は解決しません。世界で起きていることの現状を知り、問題を解決するための活動を地球規模でしていく必要があると思いました。

・食糧問題と紛争や戦争が間接的、時には直接的に関係があることに驚きました。食糧問題を解決すれば、世界が平和になるという記事を読んで、確かにうまくいけばそうなのと思うけれど、難しいことだとも感じています。WFPの活動を知ったので、その活動を支援したいと思いました。持続可能な社会へ向けて、 unnecessaryなものは買わない。ゴミの分別をする。募金活動に参加してみることを意識していきたいと思っています。

・世界のエネルギーの作られ方や使われ方を知りました。「脱炭素」という大きな目標があることも知りました。そのために、今の社会を大きく変えていく必要があると思います。企業が新エネルギー自動車を開発したり、国も新しい目標や小さな動きを決めていたりすることも分かりました。私個人としては、乾電池を使用する回数を減らしていきます。資源のごみが出ないように心がけます。

SDGs職場探訪2021

学校名:府中町立府中中学校 名前:沓木 里栄

対象	1学年	単元名	仕事について知り、自分の将来像を描こう
科目	総合的な学習の時間	目標	(1)仕事について知り、SDGsを通してそれらの職業が社会にどのような役割を果たしているか知ることができる。 (2)仕事を通して自分の将来について、簡単な方向性を見出すことができる。
時間	7時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- (1)世の中にどのような仕事があり、それがSDGsとどのようにつながっているかを知ることができる。
- (2)様々な仕事を知ることから、自分の将来像を具体化することができる。

授業内容

- 身近な職業、企業について調査する。
アイデアブックを参考にして、SDGsに取り組んでいる身近な企業や団体を調べる。
- 職場探訪
 - 生徒が調べてきた企業や団体の中から12社を実行委員(生徒)が選ぶ。
 - 生徒は、12社の中から希望する2社の話を聞く。
 - 今年度は、オンラインで行う。
- 振り返り
 - 夢マップを作成する
職場探訪の話参考に、30歳の自分を思い浮かべて、その夢に必要なことややってみたいことなどをイラストや写真を入れて表現する。

子どもたちの反応・感想

年度最後の取り組みのため、3月19日に「職場探訪」実施予定です。調べ学習をした、生徒の感想です。

- *世の中に無駄な仕事などないということがわかった。
- *いろいろなことがSDGsにつながっているのだということがわかった。
- *もっといろんな企業を調べてみたいと思った。

その他

生徒が調べて選んだ企業だと知ると、会長さんが快く自分が話をしたいといってくださいった企業もありました。

ぼくのわたしのSDGs宣言

学校名: 府中町立府中学校 名前: 沓木 里栄

対象	第1、2学年	単元名	総合的な学習の時間の学びを考える
科目	総合的な学習の時間	目標	(1) 総合的な学習の時間の学習内容の概要を理解できる。 (2) SDGsの概要を理解できる。 (3) 「わたしのSDGs宣言」を作成できる。
時間	2時間		
参考資料	アイデアブック等 動画: 「society 5.0」 動画「Leave no one behind」 動画「What's SDGs」		

期待できる学習効果

- ・世の中のために自分がいま何ができるか考えることができる。
- ・世界の現状を知ることができる。
- ・今後の学習の中で学習事項をSDGsの視点を取り入れて考えることができるようになる。

授業内容

- 1 総合的な学習の内容と目的を知る(10分)
- 2 SDGsの背景を知る(10分)
 - (1) 2030年はどんな世の中になっているのか映像を見て考える←society 5.0 (5'04)
 - (2) 今はどんな世の中か映像を見て考える←Leave no one behind(3'05)
- 3 めあての確認(1分)

「ぼくのわたしのSDGs宣言を作ろう」
- 4 世界の課題を知る
映像What's SDGsを見ながら、SDGsの内容を詳しく知る。(19分)
自分にとって重要だと思う課題を考える。(10分)
 - ・理由も考えて、ワークシートに書く。
 - ・意見交換する。



ぼくのわたしのSDGs宣言

学校名:府中町立府中学校 名前:沓木 里栄

授業内容2

5 身近なSDGsを知る(15分)

『SDGsアイデアブック』から気になった取り組みを探す。



身の回りにあるSDGsを紹介する。

6 ぼくのわたしのSDGs宣言を作成する(30分)

自分が取り組むSDGs的な行動を宣言にして、ポスターを作る。



7 振り返りをする(5分)

子どもたちの反応・感想

- * SDGsというものを初めて知った。自分たちの行動が、世界のどこかでつながっているということにびっくりした。意識して生活していきたい。
- * これからいろいろなSDGsを見つけてみたい。
- * 近い将来の姿を見て、未来が楽しみになってきた。未来のために、自分ができていることを考えて行動していきたい。

その後

- * 個人で作った宣言をクラスごとにまとめ、ポスターにして掲示した。(添付1)
- * 日常の学校生活の中で、SDGsの視点で考える生徒が増え、その後の学習につながっていった。

居心地のいい地域・国～SDGsから考える～

学校名:大阪府守口市立第一中学校 名前:立花 美穂

対象	中学2年	単元名	総合的な学習
科目	総合的な学習	目標	「居心地のいい地域・国」について、SDGsから考え、自分がしていきたいことを主体的に考えて行動しようとする態度を養う。 その1 SDGsについて知り、調べて、取り組むべき個人行動宣言をつくる。 その2 学年行動宣言を決定し、できる取り組みを考え、計画を練る。 その3 個人および学年行動宣言を実行する。
時間	24時間		
参考資料	SDGsアイデアブック ユニセフHP等		

期待できる学習効果

- ・その1 情報活用能力を活かし、課題を自分で設定する力をつける。
- ・その2 問題解決の方法を考えたり、工夫したり、問題解決までの計画を立案する力をつける。
- ・その3 問題解決に向けて、主体的に行動し、計画を実行する力をつける。

授業内容

2年生では「居心地のいい地域・国」について考え、3年生での「居心地のいい世界」につなげていく。そこで、SDGsを考える軸にした。

- ① SDGsについて知り、調べ、個人でSDGsの17の目標のうち、解決すべき優先順位を決める。そこから、個人で取り組むべきことを考え、個人行動宣言をつくる。
 - ・ユニセフHPを利用
- ② 個人行動宣言の中から、班→クラス→学年行動宣言を決定する。
- ③ 決定した学年行動宣言「SDGsを知らない人をなくします。」を達成するための取り組みを考える。
 - ・ペイフォワード作戦
(3人にSDGsをプレゼンテーションをし、説明された3人にさらに別の3人にSDGsを広めてもらう)
 - ・身近にあるSDGsに関わる写真を撮影する。
 - ・SDGsを広めるためのポスター作製
 - ・1分間動画作製
 - ・紙芝居作製



居心地のいい地域・国～SDGsから考える～

学校名:大阪府守口市立第一中学校 名前:立花 美穂

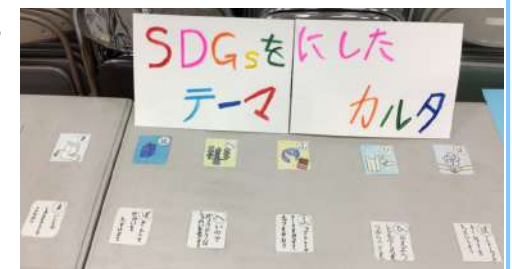
授業内容2

④ 学年行動宣言達成に向けて、プロジェクトチームに分けて実行する。

- ・SDGsカルタ作製
- ・HP作成やSNSで行動宣言を投稿
- ・ポスターを地域に掲示
- ・ゴミ拾いやリサイクルボックス設置などの貢献活動
- ・文化祭での活動報告動画と掲示物作成

⑤ 取り組んだ内容や成果物をまとめて、文化祭で発表する。

⑥ 今回の取り組みの振り返りをする。



子どもたちの反応・感想

生徒の反応・感想

- ・ 行動宣言を作ることは、自分がSDGsを知るきっかけになった。今後さらにSDGsを勉強して貢献したいと思った。
- ・ 個人行動宣言は、自分一人で考えたことを、どうしたら広めることができるか、協力してもらう人は誰かなどをととても悩んだ。他の人の行動宣言を見て、世界には苦しんでいる人がたくさんいることを知って驚いた。
- ・ ポスター作りとSDGsに関わる写真撮影は、夏休み中にSDGsをじっくりと考えることができた。
- ・ ペイフォワード作戦で、実際にSDGsを広めることができたし、これからはしたいと思った。
- ・ 紙芝居作りでは、どうやったらわかりやすくなるか、班員と話しながら頑張って作った。
- ・ SDGs動画を、どう工夫したらたくさんの人に伝えることができるかというのを考えた。
- ・ プロジェクト活動では、SNSに活動を載せたり、他の施設に伺って話を聞いたり、普段できないことができた。
- ・ 保育園に貼るポスターは、保育園の子たちでも読めるように読み仮名をつけるのに苦戦した。
- ・ 守口市役所に行ってポスターを掲示してもらえるように頼んだり、アンケートを作って充実した活動だった。
- ・ 文化祭で、SDGsをより多くの人たちに広めることができているなど実感できた。

「ふるさとを知る」

学校名:すさみ町立周参見中学校

名前:水口真由

対象	第1学年	単元名
科目	総合的な学習	ふるさと学習
時間	25時間	目標
参考資料	SDGsアイデアブック等	その1 SDGsとは何かを知り、世界や日本の様々な課題を知る。 その2 ふるさとすさみ町について調べ学習をする。 その3 すさみ町の各分野での取組とSDGsとの関連について、各グループごとにまとめ発表し交流する。

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsとは何かを知り、2030年に向けた国際社会の取り組むべき問題について知ることができる。
- ・その2 自分たちの住むすさみ町の郷土や自然、産業や取組を調べることにより、地域の良さを再認識したり、課題や問題点も認識させることができる。
- ・その3 ふるさとやSDGsについて、自分事として捉えさせることができる。また、協働してまとめ作業を行い発表させることで、コミュニケーション能力やプレゼン能力の育成の効果も期待できる。

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

- ・その1 SDGsアイデアブック等を活用し、SDGsとはなにか？17の目標とそれぞれが密接に絡み合っていること、国際社会が共通して目指している目標であること、誰一人取り残さないことが大切であること。また、様々な課題があり、世界の課題から日本へ、そして、すさみ町へと徐々に目を向けさせ、自分事として取り組むことが大切であることについて学習した。
- ・その2 自分たちの住むすさみ町について夏休みを利用して調べ学習をさせた。まず、役場職員から、良さと課題、SDGsへの取組等について講演をして頂いた。それを元に、各班ごとにテーマを決めさせ、聞き取り調査を実施した。テーマは、産業・防災・少子高齢化・自然・歴史(行事)・観光の6つ。
- ・その3 それぞれの班ごとに、すさみ町の良さ、課題や改善点、SDGsのどの目標に関連しているのか、また、達成度や課題について、模造紙にまとめさせた。また、写真や要点をパワーポイントにまとめ、学習発表会でプレゼンを行った。

「ふるさとを知る」

学校名:すさみ町立周参見中学校

名前:水口真由

授業 ・ まとめの様子

- ①テーマごとに模造紙にまとめ体育館に展示した
- ②テーマごとに簡単なアニメーションを作成し発表した
- ③テーマごとに学習発表会でプレゼンを行った



子どもたちの反応・感想

- ・SDGsについて学習し、世界には自分たちと同じ世代の子ともたちが抱えている多くの問題があるということについて知ることができた。そして、そこから、自分たちにどんなことができるのかを考えるために、まずは、自分たちのふるさとすさみ町について知るためにこの学習をするのだということが分かりました。
- ・すさみ町には、素晴らしい自然がたくさん残されている。この自然をいつまでも守り続けたいと思います。
- ・すさみには、伝統的な文化が残されており、産業は時代により変化したことや、防災・少子高齢化が大きな課題であることが、改めて分かった。
- ・課題ある少子高齢化にも、町は18歳以下の医療費や給食の無料化、通学定期の一部助成、介護サービスや高齢者に優しい避難所の開設や避難への取組などいろいろな対策を講じていることが分かった。

浜松の今を見つめて

学校名：浜松市立江西中学校

対象

1年生

科目

総合的な学習の
時間

時間

20回

■1年総合・浜松の今を見つめて

1年（ ）組（ ）番 名前（ ）

◇学習のねらい・計画



江西中 共通テーマ： ～かかわり合いの中で、未来をどう生きるか～

【1年生の総合的な学習の時間の目標】

『浜松の今を見つめて』



1年生では・・・

様々な立場の人が幸せに暮らしていけるような世の中にするために、今私達にできることは何なのかを考え、身近なことから実行していきます。

そのために・・・こんなことを行います。

- ①浜松の現状を知り、よさや課題を見つけよう。
- ②グループごとにテーマを設定し、見つけたよさや課題を協力しながら追究しよう。
- ③人に伝わるように工夫して、成果や考えをレポートにまとめよう。
- ④発表会を行い、交流し合おう。

みなさんは、未来の浜松がどんな姿だったらいと思いますか。どんな街が理想の街でしょうか。職場や地域の方々と、どんな関係を築いていきたいですか。その中でどんな生き方をしたいですか・・・。

社会は皆で協力し合って、自分たちの手で造りあげるもの。

「未来の浜松を創る担い手は、これからを生きるみなさんです！」社会をつくる「ひと・もの・こと」とどのように関わっていくべきなのか、どうすれば今よりもっと住みよい街になっていくのか、そのために自分たちにできることは何なのかを考え、みんなで学習していきましょう。

具体的には、地域や社会が抱える課題に目を向けて、広く浜松を捉えようとする活動です。それらの課題に実際に向き合っている方々にお話を伺ったり、交流したりしながら、みなさんの手で解決に向けて一歩踏み出すことができればと考えています。

①課題を探し、②交流をし、③自分たちなりに考えたことを提案。そして、レポートにまとめたものを、④発表、最後に⑤振り返りをします。

今回の学習は、班でテーマを決めて進めていきます。互いにアイデアを出し合い

ながら、考えていきましょう。追究活動は班で行いますが、レポートのまとめは個人で行います。

■1年総合・浜松の今を見つめて

●今抱えている課題に向けて、全世界でこんなことを行っています。



- | | |
|-----------------------|-----------------|
| ① 貧困をなくそう | ② 飢餓をゼロに |
| ③ 全ての人に健康と福祉を | ④ 質の高い教育をみんなに |
| ⑤ ジェンダー平等を実施しよう | ⑥ 安全な水とトイレを世界中に |
| ⑦ エネルギーをみんなに そしてクリーンに | ⑧ 働きがいも 経済成長も |
| ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう | ⑩ 人や国の不平等をなくそう |
| ⑪ 住み続けられるまちづくりを | ⑫ つくる責任 つかう責任 |
| ⑬ 気候変動に具体的な対策を | ⑭ 海の豊かさを守ろう |
| ⑮ 陸の豊かさを守ろう | ⑯ 平和と公正をすべての人に |
| ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう | |

知ってる？

ところで・・・「SDGs」って何なの～???

〈今後の学習計画〉（＊現段階の予定です。変更になることがあります。）

5月14日（金）	⑥総	ガイダンス（体育館） ・1年の総合と今後の学習計画 ・浜松の今を知る～浜松ってどんな街？～
5月28日（金）	⑥総	講話「SDGsを考えよう」
6月 4日（金）	⑥総	*浜松の課題とテーマの例（先生方の視点から） 課題探し・ウェビング（個人）① 調べ学習（パソコン、クロームブック、のびゆく浜松等）
7月 2日（金）	⑥総	課題探し（個人）② 調べ学習（パソコン、クロームブック、のびゆく浜松等）
7日（水）	⑥総	課題探し（個人）③（調べ学習） 調べ学習（パソコン、クロームブック、のびゆく浜松等）
9日（金）	⑤総	班でテーマ・検討・決定（調べ学習）
2学期は・・・		訪問計画書作成、アポ取り日程、質問事項確認
		●電話のかけ方
		アポ取り レポート下書き（レイアウト）
		アポ取り（予備） レポート下書き（レイアウト）
		●マナー講座【浜信】
		★訪問または交流予定日（仮）
		●新聞下書き【中日新聞】

		レポート、原稿作り①（発表練習）	
		レポート、原稿作り②（発表練習）	
		レポート、原稿作り③（発表練習）	
		リハーサル	
11月2日（火）	⑤⑥	★交流発表会	
		振り返り	

■1年総合：私たちの今を見つめて

班の具体的なテーマを考えよう

班

《メンバー》

・ 班長

・ 副班長

をもちに、

班で具体的に決めていこう

1年（ ）組（ ）番
名前

◆夏休みに考えた内容

例) ○現状

世界では森林伐採が進んでおり、多くの森林が失われている



●問題点

Q このまま進むと将来どうなってしまうの？



森林伐採が進むと、生物の生態系が崩れ、絶滅する生物が出てきたり、二酸化炭素の排出量が増えるために、地球温暖化が進行したりする可能性がある

●課題

Q じゃあ、私たちはどうしていかなければいけないの



森林伐採を止め、生き物の生態系を守らなければならない！

●課題解決に向けて

Q 今から私たちにできることはないかなあ？

【探究テーマ】森林を増やして、豊かな自然を守るために浜松に住む私たちができることは何だろう？



《今日の活動のポイント》

- 1 現状(下調べ)から考えられる「問題点」をしっかりと出し合おう
- 2 「課題」(問題点をどうしなければならないのか)を具体的に考えよう
- 3 「探究テーマ」を言葉にしてみよう
- 4 テーマを決めた「理由」をしっかりと決めよう
- 5 具体的に「どんなこと」を「どうやって」追究して

○○○について

○○○のために

○○○にならないために

○○○の問題に対して

○○○を止めるために

- ・ 浜松市民としてできることは何だろう？
- ・ 自分にできることを考えてみよう！
- ・ 未来の浜松市のあり方を見つけよう！
- ・ 地域社会の未来を考えよう！

いくのか、班で案を出し合おう

《班で話し合おう》

SDGs

	番「	」
------------------------	----	---

について

◆現状から考えられる問題点

--

◆課題

--

◆テーマ・・・例の書き方を参考に

--

◆理由

--

◆追究方法

どんなことを

方法

総合「浜松の今を見つめて ～SDGsの視点から～」の発表を終えて

私たちは、1学期からSDGsとは何かを学びながら、浜松市や地域が抱える課題を探り、それぞれのテーマに沿って探究活動を進めてきました。実際の取材活動やインタビューを通して、課題に正面から向き合い、自分ができることを一歩ずつ取り組んでいる方々がいらっしゃることも知ることができましたね。そうした大人や友達とのかかわり合いの中で、みなさんの生き方が磨かれていくことでしょう。

それぞれの地域で未来の街づくりを担うのは、みなさん一人ひとりなのです。明るく安心して暮らせる浜松、地域を目指して、みなさんのアイデアや行動力がこれから生かされることになるでしょう。今回の探究学習が、未来への第1歩となることを願っています。

今日、発表交流会を終え、自分の成果を精一杯発表することができたと思います。さらに、友達の発表から新たに気づいたこともあったことでしょう。これまでの学びを大きく振り返り、事前学習から本日の発表交流会までの学びの中で得たことや感じたこと、学んだことなどを記述してみましょう。



1年 組 番 名前

SDGsの発表をして、思ったことが3つあります。1つ目は、SDGsの取り組みについてで僕が探究活動をしたのは「飢餓をゼロに」について行ないました。学校の給食では、残食チェックは次のことでの参考にしていたり、スーパーでは、レタスやキャベツなどの落ちた葉は希望の人にあげることにしていたり、スターバックスでは、お客様に商品を見てもらうためにフードプログラムという取り組みをしていたので僕も協力したいと思いました。2つ目は、取材をしたことで自分が調べて疑問に思ったことを話し合いで決めたことを質問箱と書いていたこととは違う答えを知ることができたり、より詳しい情報を聞くことができました。取材をして聞いた取り組みを今の生活で生かしていけるようにしたいです。3つ目は、SDGsを学んだことで、17の目標のために取り組みや活動をしている人を詳しく知ることができました。僕も17の目標を協力できるようにしたいです。



1年 組 番 名前

私はこのSDGsの活動を通して学んだことがたくさんありました。SDGsの活動を始める前は、SDGsという言葉の意味が分からなかった。そして、少しめんどくさそうだなとも思っていました。でも浜松の現状や実態を調べていくうちに浜松にも問題があり、自分も他人とは思えないなと思うようになりました。私が知っていたテーマは気候変動についてでしたが、だから、ふつうに生活している中でも対策ができることはたくさんありました。たとえば、電気はなるべくこまめに消す、紙をうまく使い、給食も残さず食べることができました。振り返ってみると、自分ができることがたくさんあるということに気がつくことができました。こうした活動を通して、自分の生活を振り返ることができ、SDGsに向き合っている人々の努力や苦労も分かりました。だから、この活動をした意味があるように今後の生活に生かしていきたいと思います。

7.

SDGsアクションを発表しよう

学校名: 常翔啓光学園中学校学校・高等学校 名前: 外村真也

対象	中学2年	単元名	
科目	総合的な学習	SDGs・発表	
時間	2時間	目標	クラスメイトに対して、わかりやすい発表を行う
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・SDGsアクションに興味を持つ
- ・短時間で発表をする

授業内容

- ① 8:45～ 8:55 説明&デモンストレーション
- ② 9:15まで 興味のあるテーマを決める
- ③ 9:45まで パワポorワークシート作成
- ④ 10:00まで 発表練習
- ⑤ 10:05～10:20 発表(4人×3分)
- ⑥ 10:25まで ふりかえり

工夫したこと

事前にPowerPointの型を作って配信する。
生徒たちは、各項目を埋めて、発表の練習をするだけにしておく。

- ①テーマ
- ②テーマを選んだ理由
- ③アイデアのまとめ
- ④調べて気が付いたこと
- ⑤これから私がしたいこと

SDGsアクションを発表しよう

学校名:常翔啓光学園中学校学校・高等学校 名前:外村真也

授業内容2

子どもたちの反応・感想

楽しそうに取り組んでくれていました。



日常の中で感じる課題を解決する

学校名: 田辺市立中芳養中学校学校 名前: 井上一光

対象	1年、2年	単元名	
科目	総合的な学習	総合的な学習	
時間	15時間	目標	
参考資料	アイデアブック等	その1 日常生活の中での課題を発見する その2 自らが感じる課題を解決するため、情報を収集し、行動を起こす	

期待できる学習効果

- ・その1 主体的に課題に取り組むことができるようになる
- ・その2 仲間と協力し課題を解決することができるようになる
- ・その3 世界の出来事を自分事として捉えることができるようになる

授業内容

1. 全校生徒を対象にSDGsに関する授業を行い、カードゲームを行った。
2. 大学とオンライン会議を行い、大学生のSDGsに関する実践例を紹介してもらった。
3. 1年生と2年生で17個のペアを作り、1ペアずつ17個の目標をまとめ、発表した。
4. 1年生で、自分たちが日常の中で感じる課題をブレインストーミングで出し、KJ法で食品ロス問題、LGBTIに関する問題、環境問題、防災の4つにまとめた。その後自らが取り組みたい課題事にグループになり取組んだ
5. インターネットや書籍を用いて課題を探究していく過程で、関係諸団体から講師をお招きし、講義を行っていただいた。
6. 活動内容を文化祭で発表し、地域でのSDGsの周知を行った。
7. 活動内容をGoogle サイトにまとめ、保護者に公開した。

日常の中で感じる課題を解決する

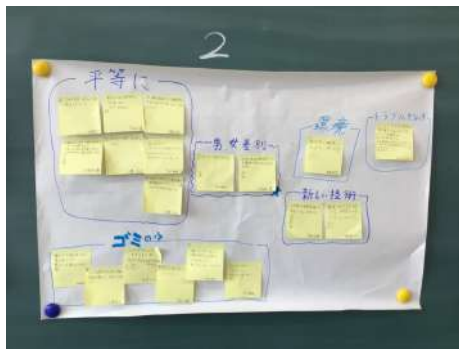
学校名: 田辺市立中芳養中学校学校 名前: 井上一光

授業の様子

大学生とのオンライン会議の様子



生徒達を感じる日常の中の課題



生徒作成のホームページ



子どもたちの反応・感想

グループの活動では、主体的に活動していた。
自分たちで関係諸団体を調べ、講師を招聘したり、全校生徒を対象にアンケートをとったりと積極的に学ぼうという姿勢が顕著に表れていた。
ホームページの作成における過程において、ICT機器の操作が上達したり、他教科との連携を図ったりすることができた。

1年生SDGsプロジェクト 敦賀のまちづくり

学校名:敦賀市立角鹿中学校

名前:田邊 昌樹

対象	中学1年生	単元名	敦賀市のまちづくり
科目	総合的な学習	目標	その1 SDGsについて学び、知る その2 自分たちが住む敦賀のまちのためにできることを考え、実践する その3 SDGsを自分事として捉え、他へと広げる
時間	25時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 自分たちが10年後の敦賀のまちを支え、発展させていくという自覚を持つ。
- ・その2 自分たちにも何かできるということに気づき、率先して行動する態度が育つ。
- ・その3 あらゆる場面においてSDGsの視点を持ち、自分事として捉えることができる。

授業内容

1 住み続けられるまちづくりを考えよう (5月)

- (1)これから先はどんな時代をむかえるのだろうか。・・・society5.0の動画を見る
- (2)SDGsを知ろう・・・アイデアブックp98～103を読む。
- (3)敦賀をこんなまちにしたい、そのために自分にできることは何だろうか。・・・ワークシートに記入

2 敦賀市のまちづくり (5月)

- (1)敦賀市役所ふるさと創生課出前授業にて、敦賀市のまちづくりの方向性、商店街の取り組みなどについて学ぶ。
- (2)敦賀のまちを歩き、良さを発信することの大切さを知り、実践へとつなげる。



3 校外学習(校区内を歩く) (6月)

- (1)校区内にある市立博物館、敦賀ムゼウムの見学を行い、敦賀の歴史と、敦賀の人の温かさを学ぶ。お寺にて、敦賀のまちの活性化に向けた取組のお話を聴く。
- (2)まちを歩き、新しくなった商店街を見たり、敦賀の名物を食べたりして、その良さを家族や友人に伝えた。事後レポートを作成する。



1年生SDGsプロジェクト 敦賀のまちづくり

学校名:敦賀市立角鹿中学校

名前:田邊 昌樹

授業内容2

1 持続可能なエネルギーについて考えよう (9月)

- (1)クリーンなエネルギーを知ろう。…アイデアブックp74～79を読む
- (2)福井県内のバイオマスエネルギー利用の現状を知る。
- (3)クリーンエネルギーに関して調べ学習…ワークシートに記入



2 校外学習(県内企業や施設でのSDGs学習) (12月)

- (1)途上国に安全な水を供給支援している県内企業の取組についてお話を聴き、その方法や、世界の現状についても学ぶ。
- (2)さばえSDGs推進センターを見学し、福井県の取り組みの状況を知る。
- (3)鯖江市役所JK課元職員さんから、まちづくりのためのアイデアと実践についてお話を聴く。
- (4)池田町にて、森林資源を生かしたまちづくりと森の豊かさを守る取組についてのお話を聴く。

3 SDGs学習成果発表プロジェクト (1月～3月)

- (1)SDGsについて、まちづくりについて、調べたことや学んだことをレポートにまとめる。
- (2)学年内で発表会を開催し、学びを共有する。
- (3)県外の中学校とリモートでつなぎ、お互いのまちの良さや情報、SDGsの学びを発信する。
- (4)アイデアブックを参考に、自分たちでSDGsのテーマを決め、実践可能なことに取り組む。



子どもたちの反応・感想

☆まちづくりに関して

・世界のSDGsによる取り組みを知り、実際に自分たちの住むまちづくりが、SDGsを意識したものになっていることや、関連企業も企業努力としてSDGsを掲げていることを知り、関心が高まった。また地域の活性化のために努力している校区の商店街を実際に歩き、見て、お話を聴くことによって、自分たちにもできることを身近に感じられていた。今まで知らなかったこともたくさんあり、生徒たちはSNSを使って発信したりと、より良いまちづくりのために何かをしようとする心が育った。

☆クリーンエネルギーの環境に関して

・アイデアブックにあるような風力発電、バイオマス発電が自分たちの住んでいるところにも使われていることを知り、より身近に感じる事ができていた。

☆アイデアブックの利用に関して

・17個の目標を理解するためにとっても読みやすい本であり、生徒たちは休み時間なども手に取って読んでいた。特にレポート作成の際には、生徒はじっくりと読んで参考にしていた。

SDGsプロジェクト学習(全18時間)

学校名: 稲城市立稲城第六中学校 名前: 古山 典秀

対象	中学1～3年	単元名	SDGsプロジェクト学習
科目	総合的な学習の時間	目標	SDGsの視点から社会を見ることを通して、様々な問題があることに気づき、自分たちが関心をもつ問題の解決に向けて課題探究、発表活動を行い、互いの発表を見合うことで、自分たちにできることを考え、行動に移すことができる。
時間	全18時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・SDGsの理念や17のゴールに関する基本的な内容の理解
- ・生徒の身の回りにある問題について考え、解決に向けてどのようなことができるかを考える。
- ・同じような問題に興味をもっている生徒同士がグループを組んで活動を行うため、自分たちで積極的に(主体的な学び)、仲間と協働して(対話的な学び)になることが期待される。

授業内容

ねらい (本時は18時間のうちの最初の2時間)

SDGsの基本的な理念や17のゴールについて理解し、世界や日本における課題について考えることができる。

学習活動

- 1 SDGsについて知っていることをペアで話す。話した内容を全体で共有する。
- 2 「SDGsってなんだろうムービー(ベネッセ)」を視聴し、感想をワークシートにまとめる。
- 3 「SDGsアイデアシート」を参照し、各ゴールについての理解を深める。
- 4 「SDGsから世界や日本の問題について考えよう」ワークシートに記入する。
その際、iPadやアイデアブックなどを活用してもよい。
- 5 記入した内容をペアでシェアする。
- 6 振り返りシートへの記入

SDGsプロジェクト学習(全18時間)

学校名: 稲城市立稲城第六中学校 名前: 古山 典秀

授業内容2

ねらい

世界や日本で起こっている問題について具体的に考え、他の生徒と共有し、マンダラートにまとめることができる。

学習活動

- 1 「SDGsから世界や日本の問題について考えよう」ワークシートに記入した内容をグループでシェアする。
- 2 グループで話し合い、17の目標のうち、特に関心が高いものを8個選ぶ。
- 3 SDGsマンダラートを作成する。選んだ8つのゴールのシールをマンダラートに貼り付け、そのゴールを達成するために、できることをグループで話し合い書き出していく。
- 4 どうしてもアイデアが浮かばない場合には、アイデアブックなどを活用してもよい。
- 5 振り返りシートへの記入

子どもたちの反応・感想



SDGs マンダラート

3年 A組 5班

私たちの
ベストアイデア

1. 飢餓の人の人数を把握する。
2. 心臓マッサージの知識をみんなに。
3. 24時間営業を少なくする。

30年後の社会のために現在の社会とどう関わるか

学校名: 福島県郡山市立小原田中学校
名前: 酒井 宏美

対象	3年	単元名
科目	理科	持続可能な社会をつくるために
時間	5～6時間	目標
参考資料	アイデアブック	その1 SDGsについて知る その2 各自が選択した1つの目標について調べ学習を行い、それについての具体的な行動を考える。 その3 学級内で発表し、わかりやすく伝える。

期待できる学習効果

- ・その1 地球環境や持続可能な社会、再生可能エネルギーなどの課題を知り、その解決に向けて具体的に行動する必要性をイメージできる。
- ・その2 興味・関心のある目標について探究的な学びの場を設定することで、主体的に学ぶ力を養う。
- ・その3 互いの意見を伝え合い、必要があれば自分の考えを修正することで、新たな視点を身に付け、社会との関わりをより深く考えることができる。

授業内容

- 1 SDGsについて知る。(1時間)
アイデアブックを用いて、17のゴールについて学ぶ。
- 2 各自が興味・関心のあるゴールについて調べ学習を行い、解決へ向けた具体的な行動を考える。(2～3時間)
- 3 学級内で発表会を行い、質疑応答などで互いの意見を伝え合う。(2時間)
必要があれば考えを修正したり、解決へ向けた具体的な行動を追加する。

30年後の社会のために現在の社会とどう関わるか

学校名: 福島県郡山市立小原田中学校
名前: 酒井 宏美

授業内容2

授業のポイント

調べ学習ではタブレットやアイデアブックなどを使用した。

発表資料は各自がタブレットで作成して、ペーパーレスに努めた。

発表会では、発表内容に対して意見を述べたり、質疑がしやすいような雰囲気作りに努めた。

子どもたちの反応・感想

SDGsの17のゴールに対して、特別な行動を起こさなくてはいけないと感じていた生徒もいたので、今回の学習を通して日常生活の身近な行動を少し変えたり、環境に意識を向けて生活するだけでもいいのだとわかり、SDGsに対するハードルが低くなった様子がうかがえた。

何も気にせずに行っていたことが、実はSDGsの取り組みになっていることと知り、特別なことではなく、身近にあるものだ后感想に書いている生徒がいた。

新庄未来学

学校名:和歌山県田辺市立新庄中学校 名前:稲垣伸次

対象	第三学年	単元名	新庄未来学
科目	総合	目標	「2030年の新庄、田辺、そして日本、世界をどんな世の中にしたいか」をテーマに、中学生の視点で、現代社会の問題点、課題を探し、それを解決していくには、どんなことができるか、どんな方法があるのかを考え、実践していく。
時間	40回		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

・SDGsについて学び、私たちにできる持続可能な取り組みを行うことで、SDGsを自分事として捉え、未来のために行動できる当事者となることが期待できる。また、その活動を広めていける人材を育てられる。

授業内容

1年間の取り組み

1学期

- ①「SDGs(持続可能な開発目標)とは何だろう」
- ②「世界の課題を、SDGsを通して見てみよう」
世界中にある課題を解決するには、SDGsのどの目標を達成するとよいか考えた。1つの課題をクリアするのに、複数の目標を同時に解決する必要があることに気づいた。

2学期

- ③「学校の中で持続可能になっていないものを見つけよう」
- ④「学校でできるSDGsの取り組みを実践しよう」
8班に分かれて、それぞれが考えたSDGsアクションを実践。
- ⑤「新庄未来学学年発表会」
各班で取り組んだ内容を学年で共有した。私たちにできることがたくさんあることを知った。
- ⑥「未来学を通して私が考えたことをスピーチしよう」
未来学を通して、それぞれが考えたことをスピーチした。SDGsを自分事と捉え、未来のためにできることをしようという思いを伝えることができた。自分の考え方が、はじめと比べて変化していることに気づいた。
- ⑦「文化祭で未来学を通して私たちが考えたことを発信」

3学期

- ⑧「未来学の活動を冊子、ポスターにして地域に発信」
より多くの人にSDGsについて知ってもらいたい、行動してもらいたいという思いを込めて活動をまとめた冊子、ポスターを作成。

新庄未来学

学校名:和歌山県田辺市立新庄中学校 名前:稲垣伸次

授業内容2

「世界の課題を、SDGsを通して見てみよう」

[illegible]

「世界の課題」について調べ、スピーチした。
調べた課題を解決するには、複数のSDGsを同時に解決しなければならないことに気付けるようにした。
発表者1名のスピーチに対して、8班に分かれて、スピーチと関連するSDGsを考えたり、解決に向けて必要なことを考えたりした。

SDGs Poster

学校名: 英数学館中学校 名前: 渡辺 直美

対象	中学1年	単元名
科目	総合的な学習	Research Skill
時間	4回	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 様々なメディアを利用してアイデアや情報を使用する その2 検索した情報を効果的に活用する その3 適切なまとめ方や携帯で情報を提示する

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsについて理解を深める
- ・その2 環境問題・社会問題を自分ごととして考えるきっかけを作る
- ・その3 自分の知らないことを知る面白さと周りに伝える喜びを実感する

授業内容

リサーチスキル

図書室とインターネットを使ったリサーチの仕方について基本的な方法を学習する。インターネット検索をより効率よく行うコツやテクニックを学ぶとともに、引用や出所を示すことの大切さを知る。今後必要になってくる剽窃などについても説明し理解する。

SDGs イントロ

リサーチについて学んだスキルを使い、SDGsについて図書室とインターネットの両方を使って調べてリサーチメモを取る。調べたことをペアになった生徒に対して口頭で説明する。

SDGsポスター制作

17の目標の中から関心の持てるものを1つ選び、アイデアブックをもう一度読み、疑問に思う点についてはもう一度調べ、理解を深める。その後、その目標についてみんなに知ってもらうためのポスターを各自製作する。

ポスターに込めた思い

ポスターを通じて伝えたい思いや願いについて短くまとめ、発表する。
ポスターとともに掲示する。

SDGs Poster

学校名: 英数学館中学校 名前: 渡辺 直美

子どもたちの反応・感想



アイデアブックを読むことでSDGsについての理解が深まり、自分が関心がある目標を選ぶことができたので、より深く知ろうというやる気につながった。ポスター作りでは多くの生徒がカラフルでメッセージが一瞬で伝わる良いものを作り出すことができた。校内で掲示し、学校コミュニティに対して意識改革へつながった。

わがまち京都の未来を創造する

学校名:京都市立衣笠中学校 名前:佐藤亮太

対象	1年	単元名	わがまち京都の未来を創造する
科目	総合的な学習の時間	目標	その1 世界の国々や日本について、SDGsの観点からよりよい未来へ向けての課題を考え、関連付けることで、SDGsを自分ごととしてとらえることができるようにする。 その2 私たちのくらす京都市について、社会や環境、経済など様々な視点で調査する中で、今まで気が付かなかった特徴やよさ、課題があることを理解し、SDGsの視点から地域の課題を解決する方法について考えられるようにする。 その3 京都市の様々な課題に目を向け、SDGsの視点からその解決方法を探ることで、京都市の未来の創造・発展について考えるとともに、自らの生活や行動、考え方や生き方に生かすことができるようにする。
時間	8時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsを自分ごととしてとらえることができるようになる。
- ・その2 京都市について、今まで気が付かなかった特徴やよさ、課題があることを認識することができる。
- ・その3 SDGsの視点を自らの生活や行動、考え方や生き方に生かすことができるようになる。

授業内容

第1時:「世界の国々について調べよう」

- ・ワークシートに挙げた30カ国の中から1つ選んで、国の特徴について調べる。
- ・調べたことを4つのテーマ(社会・環境・経済・その他)に分類し、その国の課題を考える。

第2時:「世界の国々が抱える課題を考えよう」

- ・第1時で、4つのテーマに分けて調べたことを、関連付けたり、まとめたりしながら、その国がかかえる課題を整理する。
- ・課題の背景や要因について調べ、日本や自分とのかかわりについて考える。
- ・自分たちの日常とその国の課題とのつながりをみつけ、その国の課題に良い影響を与えられる自分たちの行動を考える。

第3時:「日本にとってのSDGs課題を調べよう」

- ・第2時でまとめた国々の抱える課題や日本や自分とのかかわりについて班で情報共有する。
- ・SDGsの17の目標を手掛かりに、日本の抱える課題について、「他の国(発展途上国)に影響する課題」と「先進国としての課題」の2つの視点で考える。

第4時:「私たちにできるSDGsアクションを考えよう」

- ・第3時で考えた日本の課題をもとに、「社会」、「地域」、「家や学校」、「自分」など、私たちの身近にあるSDGs課題を考える。
- ・身近なSDGs課題をSDGsの4つのテーマ(社会・環境・経済・その他)をもとに関連付けたり、まとめたりしながら、課題を整理し、課題の背景や要因について調べ、自分とのつながりをみつける。
- ・日本の抱える課題を自分ごととしてとらえ、自分にできるSDGsアクションを考える。

わがまち京都の未来を創造する

学校名:京都市立衣笠中学校 名前:佐藤亮太

授業内容2

第5時:「地域を知る～京都のまちを再発見～」

- ・第1～4時までの学習を踏まえた上で、京都という地域の特徴をSDGsの4つのテーマ（社会・環境・経済・その他）別に調べる。
- ・調べた内容をもとに、京都というまちの特徴や良さについてまとめる。
- ・京都が抱える課題について、現在、直面している課題だけでなく、将来的に直面するであろう課題についてもまとめ、その解決方法を探る

第6時:「京都の未来を創造しよう」

- ・京都市のSDGsに関する取り組みについて調べる。
（京都市という自治体の取組だけでなく、企業や個人での取組、京都の地域性を活かした取組などに着目する。）
- ・第5時で調べたことをもとに、京都の抱える課題の解決方法や、これから取り組むべきことをSDGsの視点を踏まえて考える。
- ・京都の未来をより良いものとするために、今の自分にできることを考える。

第7・8時:「ポスターをつくろう」

- ・第5, 6時の内容を1枚のポスターにまとめる。

子どもたちの反応・感想

授業を進める中で、生徒たちは「自分たちにできるアクション」として、次のようなことを考えました。

- ・日本のODAの援助額は一時期に比べ減少傾向にある。まずは、多くの人にエチオピアの現状を知ってもらい、NGOなどの国際協力を行う団体に寄付をしてもらうように働きかける。
- ・日本が外国人労働者を多く受け入れることで、シンガポールの低所得者がより多くの年収を得ることができる。日本は人手が少ないので、仕事が見つかる。現状、外国人労働者数は約166万人で、過去最高を更新し続けている。しかし、外国人労働者への賃金が低いという意見もある。賃金が安ければ生活環境が悪化するのはもちろん、格差をうめるためのコストが今肥大していく可能性がある。
- ・争いごとがなければ、移民や難民が少なくなる。私たちができることは、移民・難民の受け入れを0.2%から30%くらいまであげたらいい。シェアハウスやふれあう場をつくることで、移民や難民のことを知ってもらい、共存できる環境をつくる。

1年生の総合的な学習の時間を整理する。
～防災・福祉学習をまとめよう～
学校名:愛知県みよし市立三好中学校 名前:村瀬悟

対象	中学1年	単元名	
科目	総合的な学習の時間		「防災」「福祉」体験学習をまとめよう。
時間	1/1	目標	
参考資料	アイデアブック等		・総合的な学習の時間で学んだ「防災」「福祉」に関する学習内容を振り返り、「防災」「福祉」の視点から世界が目指すSDGsにおける位置づけを考えることができる。 ・SDGsの取組の事例を読み解き、世界で行われている諸活動への関心を高めることができる。

期待できる学習効果

- ・身近な「防災」「福祉」と資料にあるSDGsの目標に対する取組を比較することで、社会の仕組みに関する視野を拡げることができる。
- ・具体的な事例を読み込むことで、社会で起きている諸問題への関心を高めることができる。

授業内容

○経緯

1年生前期に「防災」、後期に「福祉」をテーマに一人一人が課題設定して実地調査や体験活動、まとめ発表会などを行ってきた。

防災学習では、「公共機関の防災対策」「防災グッズ」「非常食」「被災前の活動」「災害時の対応」など、一人一人がテーマを設定し。チームで実地調査・アンケート・インタビューなどを行い、まとめ発表会を学年内で行ってきた。

後期には福祉に関する学習を行い、コロナ感染拡大により活動制限があったが、事前学習の後、「点字体験」「車いす体験」「盲導犬に関する講話」「アイマスク体験」「認知症講座」を開講して学習を行った。

こうして学んだ「防災」「福祉」は、人々のより良い生活を築くための「社会の仕組み」の一つである。これらの身近な「社会の仕組み」に対し、世界はSDGsの17の目標を掲げた取り組みが各地で行われている。

自分たちの学んだ身近な「社会」から視野を広げ、「防災」「福祉」もSDGsの目標の一つとして活動されていることに気づかせること、同時に「防災」「福祉」を体験した中学生の立場からもできることがあり、常に考えながら行動する力を高めることをねらいとした。

1年生の総合的な学習の時間を整理する。
～防災・福祉学習をまとめよう～

学校名:みよし市立三好中学校 名前:村瀬悟

授業内容2

○授業の内容

1 導入

- ①1年生で学習してきた「防災」「福祉」の学習について振り返る。
- ②「防災」「福祉」がSDGsの17の目標ではどのように扱われているかをワークシートを利用して考える。
(例)「防災」…No.11「住み続けられる街づくりを」
No.9「産業と技術革新の基盤をつくろう」
(こんな所が…)「地震などが起きても、まちに住み続けることができて人がたくさん住めたり被害が少なくなる)」
「福祉」…No.5「ジェンダー平等を実現しよう」
No.4「質の高い教育をみんなに」
(こんな所が…)「差別するとみんなの幸せにならない」

2 展開

- ③ 1-②で挙げた目標に関連する冊子のページを読み、社会で取り組まれている事例を要約する。
- ④ 要約した内容をグループで紹介しあい、一人一人の視点の違いや事例を学ぶ。

3 まとめ

- ⑤ 本時を振り返り、中学生である今の自分でもできることをワークシートに記入し、発表する。

子どもたちの反応・感想

自分たちの学んできた「防災」「福祉」は、自分たちが今被災したらどうするべきか、点字や車いすの利用者の立場はどんな思いか、など身近な部分であった。
今回の資料を読み込むことで、社会全体で起きていることや企業・団体が取り組んでいることなどに触れ、より視野が広がる活動になった。



<まとめ>
学校での学習は、知識を増やすためのものではありません。自分の心の成長や、できること＝スキルを増やして生活に役立てたり、人のために活動したり…行動することで価値が生まれます。
1年間の学習を振り返り、今の自分だからできること、考えてみましょう。

「私の行動～防災編～」
石臼を振り回すために、自動車ではなく、マイカーを
使って移動しようとする。

「私の行動～福祉編～」
女性だから、子供を産むからと差別しない。

1年生の総合的な学習の時間を整理する。 ～防災・福祉学習をまとめよう～

1年 組 番氏名

1年生の総合的な学習の時間はどうでしたか？今年度は社会の仕組みを知る、2つのことを学習しました。

「防災」「福祉」この2つに共通することは何だと思いませんか？

一つは、「誰かの役に立つための社会の仕組み」だということです。

1年生の学年目標「HEROES～誰かの役に立つ喜びを抱く～」の柱になる学びになっていたら嬉しいです。

【SDGsの視点では、「防災」「福祉」はどのように扱われているでしょう】

「SDGs(持続可能な開発目標)」は皆さん小学校でも学習してきましたね。SDGsとは、国連で決めた「誰一人取り残さない」世界のより良い未来を創るための2030年までの目標です。

1年生の間に学んだ「福祉」「防災」がこのSDGsではどのように扱われているのか、17の目標に該当するものを想像して、冊子に記載されてある事例を読んでみましょう。

『防災』…SDGsではどの目標に関係するだろう？

No. (13) 「目標 気候変動に具体的な対策を」
No. (11) 「目標 住み続けられるまちづくりを」
No. () 「目標 」

(こんな所が…) 地震などの災害でたくさんの方が家を失ったたりしたいん
なことがたくさんあるから、その人たちを住み続けたりしたりそのことへの
対策に関係するから。

該当する目標のページを読んで、取り組みの事例をまとめてみよう。(要約しよう)

⑬ 気候変動への2つの方向性。

1. 化石燃料をやめる 2 異常気象を引き起こす可能性
を可能な限り小さく抑える

2
上を並行して進めることが大切

再性可能エネルギーへ

取引口座を変えて銀行に意思を伝える

⑩ レジリエントなまちづくりが必要

好きに採って食べていい 二住民が気軽に参加

好きから始まるSDGs

学校名: 八風中学校 名前: 花井綾

対象	3年生	単元名	好きから始めるSDGs
科目	総合	目標	その1 好きから始めるSDGsでSDGsを身近に感じる。 その2 アイデアブックを参考にポスターセッションの準備。 その3 ポスターセッションで今できることをプレゼン！ SDGsであふれる菰野町にする。
時間	4時間＋発表会		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・アイデアブックを参考に自分たちでできることを考えることができる。
- ・SDGsについて身近なことから取り組むことができる。

授業内容

好きから始めるSDGsを全員(132名)に考えさせて、その中から14のプロジェクトを教師で抜粋し、14グループで発表に取り組んだ。

発表の内容は、○好きから始まるSDGs、○菰野町でできること(わたしたちができること)、○想像しよう2030年の未来の3つの柱を中心に各グループで考えさせた。

すぐできるアクションとすぐにできないアクションがあるので、すぐできるアクションはすぐに活動を進め、すぐにできないアクションはポスターを使って発信することを主な活動とした。中学生がすぐに進められなくても、地域の力を借りたり、周りの人と協力してやってみるなどさまざまなアプローチがあるので、ポスターセッション(発表会)をすることで、中学生が発信し、周りに広がることをねらいとしている。

授業内容2に14のグループの概要を記載した。

ポスター作成について

各アクションプロジェクト模造紙2枚までにアクションをまとめる。

写真やイラストで表す。(SDGsの17の目標は教師が印刷、ポスターに貼る)

各アクション5分間でプレゼンテーションができるように原稿をまとめる。

各アクションを2つのグループに分けて、それぞれが発表をできるようにする。

好きから始まるSDGs

学校名: 八風中学校 名前: 花井綾

授業内容2

No	好き		SDGs	リーダー	概要
1	陸上	×	9	B	ランニングシューズやスパイクなどの材料を環境に優しいものにするために、石油を使ったものを使いすぎないような開発。包装を紙にする。
2	サッカー	×	10	B	スポーツで健康増進。ラフプレー禁止のルールなど。発展途上国・先進国関係なく、サッカーができる環境を作る。
3	野球	×	5	D	「年・性別・国・障がいに関係なく野球を楽しむために」球場の車いす専門席を一般席と一体化。女子も公式戦に出られるようにする。車いす野球について。
4	スポーツ	×	17	B	誰とでも楽しめるスポーツ大会みたいなものをやってみたい。スポーツが楽しめる場所を増やしたい。エキシビジョンマッチの実施。庁舎で呼びかけ、地域に関係する選手。
5	家電	×	6、12	A	エコな家電を作る。障がいのある人が使いやすいようなものを作る。
6	ゲーム	×	3、10	B	目が見えない人が使えるようにコントローラーやキーボードに点字をつけたものを作る。シューティングゲームで耳が聞こえづらい人のために足音などを画面に3Dで方向などを表示する。
7	食べ物	×	2、12	B	残飯が出ないカフェを開く。途上国の人もたくさん食べられるようにする。日頃から日常的にクラス・八風中の生徒が好き嫌いなく食事する。残飯への意識が高まるので、ゴミも減る。
8	食べ物	×	11、12、8、15	C	菰野町で障がい者など誰とでも交流できるご飯屋さんを作る。車いすレストランみたいに誰もが快適に飲食ができるようにする。
9	化学	×	7、13	B	現代に必要な発電を知ろう。実験でわかるクイズ式学習。実験を行うたびに二酸化炭素が発生するが、それをみて環境を守る意識を高める。
10	山	×	15	D	今の山の状態を知ってもらおう。環境に優しいモノづくり。植林。自然の中のアスレチックなどを楽しんで生物や自然に触れ合う。
11	本	×	14、17	D	八風中の人たちに読まなくなった本を寄付してもらい、本を読む機会を増やす。学校から許可を得て、校内放送で呼びかけ、本を持ってきてもらい、図書室に置く。
12	旅行	×	10、11、15	C	観光地や自然を守るためにゴミの持ち帰りや動物などを傷つけないことを呼びかける。障がいを持っている人や高齢者が安心して旅行をできるような設備を整える。
13	買い物	×	8、10、16	C	みんなが買い物をすれば経済が良くなる。誰もが不自由なく買い物をできるようにする。買い物に行けない人はバリアフリーを取り入れている店を身近なところを作る。
14	絵	×	16、17	B	八風中でアニメを作ろう！できるだけ世界の問題に関する内容を作るとかテーマを決めておく。

子どもたちの反応・感想

カラーで写真も見やすく、子どもたちから口々に「〇〇番の目標のところに書いてあるよ。」など声が聞こえてきました。

また、好きから始まるSDGsで学年集会で話をする原稿を作る際、参考にしている生徒もいました。(写真参照)

※その他

教室の10冊ずつ置き、道徳の授業などでも活用しました。



身近なSDGsと私たちの関わり

学校名: 富山市立楡原中学校 名前: 鈴木 友之

対象	1学年	単元名	
科目	総合的な学習の時間	SDGs	
時間	計40時間	目標	
参考資料	インターネット 企業訪問 SDGs参考書各種	その1 世界や日本、身近で起こる問題を知り、SDGsの視点でどのような取り組みが行われているかを知る。 その2 SDGsゴール14「海の豊かさを守ろう」について自分たちが取り組める活動について考える。 その3 他校との交流を通して自分たちの生活とSDGsがどのように関わっているかを知り、対策を考える。	

期待できる学習効果

- ・SDGs達成に向けた諸問題を身近に感じ、自分事として様々な問題について対策や取組を考えることができる。
- ・他校との交流を通して同年代の中学生が同じねらいをもち、学習を進めていることを知ることで互いに仲間意識をもち学習に意欲的に取り組むことができる。

授業内容

- ・SDGsゴール14「海の豊かさを守ろう」をメインテーマに、自分たちに取り組める身近なSDGsについて学習した。まず始めに世界や日本近海で起こっている海洋ゴミ問題について調べ学習を行い、どのような問題が起き、それらに対してどういった取組がなされているかをインターネットや「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」等を活用して調べた。
- ・調べ学習では「海のゴミの約8割は陸地で捨てられたゴミが川を伝い、流れ着いている」ことがわかり、この問題に着目した。
着目した理由は、校区に流れる「神通川上流」は見ると限りでは美しく、ゴミが流れていないことから、この問題が本当なのか疑問をもった。
- ・この疑問を解決するために「海」、「川」、「陸」のゴミの量と種類を調査した。調査の結果から3カ所のゴミの量と種類は類似していることがわかり、陸からのゴミが海に流れ着いていることが証明された。
- ・この結果を基に、自分たちに取り組める対策を考えた。
〈対策1〉3Rの推進
〈対策2〉地域へポイ捨て禁止の呼びかけ
〈対策3〉他校と交流し、互いに海を守る対策を考え、交流する。
これら3つの対策を考え実行した。

身近なSDGsと私たちの関わり

学校名: 富山市立楡原中学校 名前: 鈴木 友之

授業内容2

- ・〈対策1〉、〈対策2〉は学習発表会で調査内容と結果を発表し、保護者や地域の方々に呼び掛けた。
- ・〈対策3〉は神通川下流の富山市立岩瀬中学校1年生とSDGsについての交流を行い、互いに調べた内容やその結果、対策等について情報交換を行った。
- ・これらの学習を通して生徒のSDGsに関する関心が高まった。普段の生活においても節電や環境に配慮する言動がみられるようになった。

子どもたちの反応・感想

〈海のゴミを拾った生徒の感想〉

- ・海のゴミはすごく汚かった。
- ・ビニールやプラスチックは海の生き物が飲み込むと死んでしまうのでできるかぎりゴミを拾っていきたい。
- ・チクチクしたプラスチックゴミが多く、足に刺さると大変だ。自分たちが捨てたゴミで自分たちを苦しめていると感じた。
- ・ゴミのないきれいな海に行きたい、きれいな海にしたい！

〈川のゴミを拾った生徒の感想〉

- ・海で拾ったゴミと種類が似ている。
- ・発泡スチロール系のゴミが多かった。ゴミを捨てないでほしい。
- ・海のゴミのペットボトルにはキャップが付いていなかったが、川のゴミのペットボトルにはキャップが付いたままのものが多かったことに気付いた。

〈陸のゴミを拾った生徒の感想〉

- ・道路の脇にゴミが溜まっていることに気付いた。普段目が行かなかったが、たくさんのゴミがあった。
- ・プラスチックの破片がたくさん落ちていた。これが川を伝い、海へと流れているのかなと感じた。
- ・人目の付きにくい場所に大量のゴミが捨ててあり、ゴミが隠すように捨てられていたことに腹が立った。

〈他校との交流を終えた生徒の感想〉

- ・互いの学習内容を発表し合うことで学習の幅が広がりそう。
- ・交流を通して合同でゴミ拾い活動ができるのではと思った。
- ・岩瀬中学校が調べた学習内容を聞き、自分たちが知らない知識を得ることができ、次の交流も楽しみになった。
- ・岩瀬中学校の発表を聞き同じ目的をもち学習をしていたが、身近な問題だけではなく、世界で起こっている問題についても触れることができました。
- ・プラスチック類が多い原因の一つとして日本の過剰包装が挙げられることを知りました。外国では無駄な包装をせず、ゴミの削減に取り組んでいるといった知識を得ることができた。

地域社会と自然～「住み続けられるまちづくり」の工夫とは～

学校名:富山市立楡原中学校 名前:宮井 杏理

2学年	
総合的な学習の時間	SDGs
計30時間	
インターネット 企業訪問 フィールドワーク SDGs参考書各種	その1 世界や日本、身近で起こる問題を知り、SDGsの視点でどのような取組が行われているかを知る。 その2 校外学習を通して、SDGsゴール11「住み続けられるまちづくり」について、実際に行われているまちづくりの工夫を発見する。 その3 調査結果を基に、自分たちの地域のまちづくりについて、課題や改善点を見付けたり、考えたりする。

- ・SDGs達成に向けた諸問題を身近に感じ、自分事として様々な問題について対策や取組を考えることができる。
- ・学級での話し合いやフィールドワークを通して、「住み続けられるまち」について、多角的・多面的に捉えることができる。

SDGsゴール11「住み続けられるまちづくり」をメインテーマに、自分たちにとって「住みやすいまち」とはどのようなものか学級で話し合いを行ったり、校外学習で実際に行われているまちづくりの工夫を見付けたりしながら、各自が関心をもった課題について、追究活動を行った。

＜事前学習＞

- ・まず始めに、「住みやすいまち」について学級で話し合いを行った。居住費や自然環境、防災、地域のつながり、治安等、様々な観点から意見を出し合い、まちづくりには多くの要素が含まれることを確認した。
- ・SDGsゴール11について、現在の課題や実施されている取組について、インターネットや図書（「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」等）を活用して調べた。ゴール11は、「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」というテーマのもと、10個のターゲットから構成されていることを確認し、防災や地域の環境保全に関する取組が重要だということがわかった。
- ・校外学習で訪問する予定の地域（富山市八尾）について、事前に地域産業等の特色を調べた。全国的にも有名な、八尾地域の伝統行事である「おわら風の盆」に着目し、「地域人口の約40倍もの観光客が訪れることで何か弊害はないのか」「観光客が廃棄したゴミはどのように処理されるのか」等の疑問をもった。

地域社会と自然～「住み続けられるまちづくり」の工夫とは～

学校名：富山市立楡原中学校 名前：宮井 杏理

＜校外学習＞

- ・班別学習では、八尾の町並みを散策したり、地域の伝統文化である「紙すき」や「和菓子づくり」を体験したりした。また、おわら資料館や曳山展示館等の文化施設を訪問し、地域の歴史や伝統文化について学習した。
- ・観光や地域サービス等の事業主の方から、SDGsに関する講演「住み続けられるまちづくりを—伝統文化を守ることを通して—」を聞いた。おわらの文化を守ることや雇用を生むこと、空き家の活用が住み続けられるまちづくりにつながるということを学んだ。また、防災に関して、「八尾では、昔から家と家の間隔が狭く（壁と壁が近い）、火の用心のため、夜には鐘を鳴らす習慣が今も残っている」という話を聞き、地域特有の習慣や伝統を引き継いでいくことも、まちづくりに欠かせないことだと考えた。

＜事後学習＞

- ・校外学習を通して個人が関心をもったテーマ（地域の自然や景観の保持、地域産業の活性化、伝統文化の継承等）について、自分たちの住む地域ではどのような取組がされているのか、調べ学習を行い、発表をした。

＜体験学習を終えた生徒の感想＞

- ・和菓子づくりは細かい作業が多く、とても神経を使う仕事だと感じた。職人の方が、美しく、おいしい物をお客様に食べてもらいたいという気持ちで一生涯和菓子づくりをされている姿が印象的だった。
- ・紙をすく作業は思っていたより簡単だったけど、その後の紙を乾かししたりする作業等はやはり職人技だなと思った。何百年と続いている、伝統と誇りのある和紙の文化をこれからも大切にしていきたいと思った。

＜SDGsに関する講演を聴いた生徒の感想＞

- ・これまで富山県に来る外国人観光客の数は少なく、八尾等に来る人はごくわずかな数だと思っていた。しかし、実際は多くの外国人観光客が訪れていて、一度ではなく何度も来られる方がいることも知り、富山県民として誇らしく感じた。
- ・お話の中で、「八尾の最大の魅力は何か」という質問に対して、「八尾の人がおわらに向き合う姿勢が魅力」と言っておられたことが印象的だった。おわら自体もとても魅力的だけど、これまで受け継がれてきたおわらを、人々がつくりあげ、その暮らしにおわらが根付いていると考える素敵だと思った。

中高合同探究活動「未来の仕事を考える」

学校名：茨城県立太田第一高等学校附属中学校 名前：袴塚かつ良

対象	中学2年生	単元名	未来の仕事を考える
科目	総合的な学習の時間	目標	様々な分野の仕事や、その仕事に従事する人々に関する探究的な学習を通して、私たちが暮らす現代社会に興味を持つとともに、未来において、現在存在しないが必要となる仕事について、中高生の対話を通して考えを深め、絵や言葉で具現化することで、より良い社会づくりに参画する意識を持つことができるようにする。
時間	5時間		
参考資料	・SDGs動画『What's SDGs?』 ・『未来を変える目標SDGsアイデアブック』		

期待できる学習効果

- ・ 現代社会にある課題(問題点)から、20年後の未来を想像し、新たな仕事を考えることができる。
- ・ 高校生との対話を通して、20年後の社会や将来の仕事について、お互いの考えをより深めることができる。

授業内容

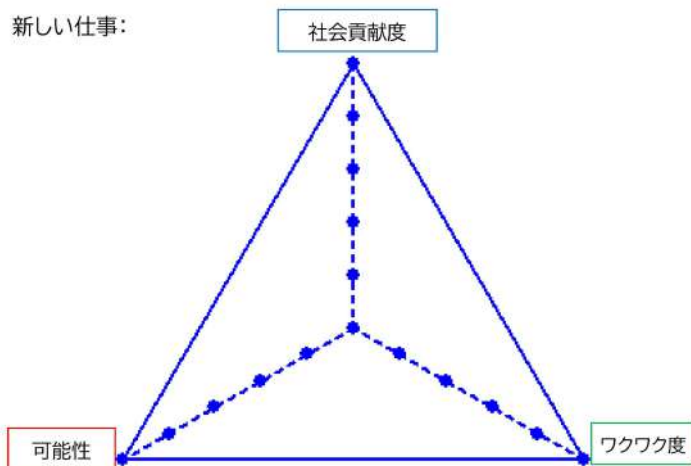
- 1 現代社会を知る(中学生のみ) 【2時間】
 - ① SDGsの動画を視聴する。
 - ② 『アイデアブック』を読んで、現代社会の課題を挙げる。また、なぜその課題に関心があるのか、理由を合わせてワークシートに記入する。
- 2 より良い未来について考える(高校1年生とのグループ活動) 【1時間】
 現代と20年後を比較し、未来社会はどうあってほしいか、将来の生き方や現代社会の課題から、対話を通して考えを深める。
- 3 未来の仕事を具現化する(高校1年生とのグループ活動) 【2時間】
 前時の話し合いから、未来の仕事について意見交換をして、考えを深める。
 「社会貢献度」、「可能性」、「ワクワク度」の3観点から考えを具現化し、Jam boardにまとめ、発表する。

中高合同探究活動「未来の仕事を考える」

学校名: 茨城県立太田第一高等学校附属中学校 名前: 袴塚かつ良

授業内容2

発表用Jam board



子どもたちの反応・感想

未来の仕事生徒案

「ドローン操縦社」「土地を高くする仕事」「勉強やスポーツを一緒に行い共有する人」「音楽×教育」「子供も働くことができる仕事」「昆虫食工場」「宇宙不動産」「楽しい夢を見させる仕事」「森林保護および植林マスター」「サポートAI」「リサイクラー」

※別紙「振り返り」



課題解決のために

学校名:山手学院中学校 名前:小原太美恵

対象	中学一年生	単元名
科目	道徳・探究	学年の時間
時間	6時間	目標
参考資料	アイデアブック・読売教育 ワークシート	その1 課題解決のための方法(ロジカルシンキング)を学ぶ その2 SDGsについて理解を深める その3 SDGsについて自分自身が解決したい問題を追及し、自分達ができることを具体的に提案し、実行する。

期待できる学習効果

- ・その1 問題に対して論理的に整理し、真に解決できる方法を模索する力。
- ・その2 世界の持続可能性という問題を自分自身の未来ととらえ、解決しようとする主体性。
- ・その3 仲間と共に解決に挑む協働力。

授業内容

10/28 事前授業「課題解決のために」

課題解決のためのロジカルシンキングを学ぶ授業。(資料 パワーポイント参照)

11/4 SDGs講演 Think The Earth 笹尾氏 SDGsについて理解を深める。ワークシートでまとめる。
(写真とホームページでの報告参照)

11/11 グループ活動(クラス横断四人一組のグループ) 準備 模造紙・ペン・付箋

グループで一冊「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」を読みながら、ワークシート(資料添付)を用いてワーク。

自分が「解決しなければならない」と思っている事柄を付箋で書き出す。

アイデアブックを読みながら、グループで手分けして17ターゲットに分ける。

SDGsポスターの該当目標に付箋を貼っていく

ワークシートに記録しておく。可能なら、どの問題について取り組むか班で決める。

※このときに注意したいのは、「自分達が取り組めること」であること。事前授業でも押さえたポイントですが、行政とか国連とか誰か任せでなく、自分達の問題として自分達が行動に移せる策を考えることが大切。

11/18・11/25 グループ活動

班で協力して発表の準備

1 取り組む問題

2 問題の現状説明

3 解決策(取り組みの具体的策と起こしたいアクション)

12/9 ポスターセッション

各自評価ワークシート(資料)に記入し、クラス代表を決定。

課題解決のために

学校名:山手学院中学校 名前:小原太美恵

授業内容2

何よりも大切にしたいのは、「自分事」にすることです。SDGsはともすればはやり言葉になりかねません。単なる知識として理解し、他人事のような発表をするのでは自己満足に過ぎず、30年後の世界をよりよくするために自分が何をすべきか、必ずできることを提案することを何度も強調しました。そのために、まずは問題を「解決できるもの」と「できないもの」にわけて、解決策を論理的に導いていくための思考法を学ぶことから入り、実際に活動をなさっている笹尾さんの話を聞くことで理解を深め、その上でアイデアブックやワークシートを用いながら、自分達が解決したいと思う問題がSDGsのどの目標にあたるかを整理しながら、実際に解決しようとする問題を決定していきました。子供たちはみな本当に真剣に取り組み、ポスターセッションでは他のグループの人々の発表もしっかり聞くことで、自分以外の人々の問題意識も共有することができました。今回の授業はあくまでもスタートです。これかに学年が上がるにつれ、他の探究活動とリンクさせて継続していきます。2030年、彼らが22歳になったときによりよい社会を実現する人として行動していることを目標としています。

子どもたちの反応・感想

自分達が解決できる問題、としたことで、生徒たちの問題解決が「自分事」であった。たとえば「差別」であれば、いじめをなくすために普段から言葉遣いに気をつけること、など身近で具体的な取り組みを考えたいため、自分達一人一人が行動しなければならない、という意識付けができたと思います。

「つくる責任 つかう責任」個人でできること

学校名:大阪府門真市立第七中学校 名前:福本陽子

対象	3年	単元名
科目	道徳	SDG's目標12を考える
時間	1時間	目標
参考資料	その1 「つかう責任」について個人ができることを考える その2 日本のフードロスの現状を知る その3 家庭でできるフードロス対策、エシカル消費を考える	
アイデアブック等		

期待できる学習効果

「つかう責任」を考えた消費行動ができる。

授業内容

1. 巻頭折込みを使ってSDG'sの目標について知る。
2. 目標12についてP.104～109を読んで考える。
3. フードロスについて、プリントや映像で日本の現状を知る。
4. フードロスを減らすために個人でできることを考える。
5. フードロスやごみを減らすための取り組みについて映像を見て知る。
6. P112を読み「エシカル消費」について考える。
7. 映像でエシカル消費の暮らし方を見る。
8. 授業を受けての感想、これから取り組みたいことについて書く。

「つくる責任 つかう責任」個人でできること

学校名:大阪府門真市立第七中学校 名前:福本陽子

子どもたちの反応・感想

《生徒の感想より》

- ・今回の授業を受けて、日本のフードロスはとても多くてびっくりしました。持続可能な社会に向けて、個人個人の努力が必要だと思いました。食品ロス対策として極力不要なものが出ないようにしたいと思います。
- ・エシカル消費は、意外とやっていることが多かった。その他のものもちょっとひと手間で行える事が多かったから意識していきたい。
- ・自分が思っている以上に日本から出るフードロスの量が多い事と、一人当たりの年間でのフードロスも多くて驚いた。フードロスをなくすために、自分の中でも工夫してできるだけ食べきろうと思った。
- ・自分たちがたくさんのごみを捨てている中で、世界には十分に食べれない人も多くいるので、これからの生活を変えないといけないと思いました。また、リサイクルをして、あまりごみを出さないようにしようと思います。

道徳「もっとわかりあいたい」

学校名：川崎市立枳形中学校 名前：池田晴香

対象	3学年	単元名	道徳 よりよい国際社会を築く「もっとわかりあいたい」
科目	道徳	目標	その1 国際的な視野に立ち、他国を尊重し、違いを理解した上で、世界の平和と人類の発展に貢献するために自分たちには何ができるのかを考えようとする心情を育てる。 その2 教科の学習や総合的な学習の時間等をとおして学び得た SDGs に関する知識を用いて考えることで、より深く世界のことを知り、自分にできることは何かを考えさせる。
時間	2		
参考資料	・アイデアブック ・長野SDGsプロジェクト ー自分たちで作る、楽しめるオリジナルのSDGsすごろくゲーム等		

期待できる学習効果

- ・その1 世界が抱える課題について考えることで、自分が世界のためにできることは何かを幅広い視点で考えることができる。
- ・その2 SDGsの17の目標についてより深く考えることを通して、自らの生活における問題はないかと考え、より良い行動に移すことができる。

授業内容

授業内容

①道徳資料の範読

教材：「もっとわかりあいたい」学研 新・中学生の道徳「明日への扉」より

本文では、世界の課題解決にむけて考え、実行している2人を紹介することで、国際的な課題について知り、自分にできることを考える。

発問：2人の話を読んで、この二人が得られたものはなんだろう

- 世界の人のために自ら行動する力
- 国際的な問題をより身近に感じること
- たくさんの人からの「ありがとう」

②動画を見る

【子どもの保護】児童婚をなくしたい～14歳で結婚したアビバの活動～(カメルーン)/日本ユニセフ協会 子どもと先生の広場

【URL : <https://www.youtube.com/watch?v=fzsHXa47TIY>】

この動画では、世界が抱える課題の一つ「児童婚」について知ることができる。本校では、エネルギー環境教育を通年で卒業まで続けて行うことにより、SDGsのgoal13・14・15・16について深く理解している生徒が多い。だが、ジェンダー平等や貧困、飢餓への関心や理解が乏しいという現状がある。そのため、今回は、あえて生徒自身が、自分の知らない世界があることを自覚し、考えるきっかけをつくりたいと考えた。

発問：私たちには、まだまだ知らない世界の課題がたくさんある。今回はそれについて知り、なぜその状況にいたってしまうのか、どんな手だてがあるか、を考えよう。

道徳「もっとわかりあいたい」

学校名：川崎市立柊形中学校 名前：池田晴香

授業内容2

③SDGsすごろくの作成

今回の題材を読んだことや、教科の学習や総合的な学習の時間で得られた学びを生かして、「SDGsすごろく」を作成する。

資料：①長野SDGsプロジェクトー自分たちで作る、楽しめるオリジナルのSDGsすごろくゲーム
【URL：https://www.naganosdgs.jp/materials_list/suwa】

②アイデアブック

アイデアブックを読んで、SDGs17のGOALをヒントとして、世界にはどんな課題があり、どんな解決策がなされたかを知ろう。また、これまで得た学びも生かしてグループで一つの「SDGsすごろく」を完成させる。

→これにより、課題がなぜ生まれてしまうか、という背景やそれを解決するための手だてについて生徒たちが考える入口に立てるようにする。

注意

- ①一人よがりの考えにならないよう、班員と意見をかわしながら作成するための声かけをする。
- ②空想にたよりがちになる生徒がいるので、事実を調べたり、根拠をあげたりすることができるようにする。

④グループで作成した「SDGsすごろく」をやってみる

子どもたちの反応・感想

本校では、「エネルギー環境教育」と「福祉教育」を軸として総合的な学習の時間の年間計画を立てている。企業を呼んでのワークショップや講演会、学校全体で夏季休業を通じて行うボランティア活動、3学年それぞれでテーマをもって行う福祉教育、とSDGsについて考える機会を多くあたえるようにしている。そのため、「SDGsについては、知っている」「どちらかという知っている」という生徒が多い。

だが、今回3学年の1学級で行った道徳の授業では、「まだまだ世界の課題で知らないことがたくさんあるということを感じた」という意見や、「環境以外にも、国際的な課題があり、その課題達成のために尽力している人たちがいることを知った」という意見が多くあった。また、「まずは、中学生の自分でもできる、募金などから行動してみたいと思う」という、これからの行動につなげようとする意見も見られた。

バター戦争・アニマル大陸の危機を救おう

学校名:和歌山県田辺市立龍神中学校 名前:東 正弘

対象	中学3年生	単元名
科目	社会科	単元名を教えてください
時間	2時間	目標
参考資料	公民教科書 (東京書籍) アイデアブック等	その1 多様な視点から世界の平和と人類の発展について考える ◎対応する目標 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう

期待できる学習効果

- ・その1 多様な価値観に触れ、お互いを認め合う心を養う。
- ・その2 より良い社会の実現にむけて、自分自身が関わることがあるということに気づききっかけにする。

授業内容

①バター戦争 あらすじ・授業内容

タヌキ国とキツネ国の2つの国は、バターの塗り方の違いで長い間、戦争を行っています。ついに、お互いに最強兵器を開発し、緊張は最高潮に達します。生徒は、タヌキ国とキツネ国の争いを止めるためにはどうすれば良いか話し合いを行いました。

②アニマル大陸の危機を救おう あらすじ・授業内容

タヌキ国とキツネ国の争いが終結し、30年経った今、アニマル大陸では、新たな問題が発生していました。タヌキ国が突然の干ばつに襲われます。調査の結果、アニマル大陸の水源である湖が枯渇し、このままでは、大陸中の動物が生きてはいけぬ未来が待ち受けています。この危機を脱するために、大陸にある4つの国は解決策を考えるために国際会議を開きます。大陸の危機を回避するためにグループに分かれて解決方法を話し合いました。

①の授業では、お互いの価値観を認め、折り合いをつけながら課題を平和的に解決に導く方法を模索した。その中で、「争い」は、ささいな価値観の違いから生まれやがて大きなものへと発展するということに生徒は気付いた。そして、互いを認め合う寛容な心と対話による対立の解消こそが、平和の第一歩であると学習することができた。

バター戦争・アニマル大陸の危機を救おう

学校名:和歌山県田辺市立龍神中学校 名前:東 正弘

授業内容2

②の授業では、気候変動により大陸全体が危機になる中、それぞれの国の利害関係を調整しながらすべての国にとって良い未来を創造することを目指します。4人で1つのグループに分かれ、それぞれが「タヌキ・キツネ・ネコ・イヌ」の国の代表となることで主体的に課題に取り組むことができました。利害関係を捨て、公正な関係で互いを助け合える協力体制を気づくことの重要性に気付くことができました。

生徒たちは、これまでにアイデアブックをもとに学習してきた知識をもとに、対立の解消や国際問題の解決にむけて議論をし、考えを深め合いました。架空の課題ではあったものの、国際問題が非常に複雑なもので、1国だけでは解決できないことや、他国で起こっている問題も、自分たちの生活につながっているという感覚を学ぶことができました。本校では、SDGsの取り組みはスタートしたばかりですが、アフリカの飢餓や貧困に自分たちの生活が関わっていることや、その解決にむけて自分自身でもできることがあるという社会の抱える課題と自分たちとの関連性を意識できる機会となりました。次年度以降は、課題解決にむけた実践的な取り組みやそれにむけたアイデアを考えるような取り組みができればよいと思います。

子どもたちの反応・感想

バター戦争 感想

戦争のきっかけは、何でもあると感じた。バターのぬり方だけでけんかしようと思わなければ、タヌキやキツネにとっては戦争を起してしまうくらいバターのぬり方が生活の中で大事だと思っていた。

アニマル大陸の危機を救おう 感想

国どうしの会議はとてもむずかしいなと思った。一方は良くてももう一方がダメだと成立しないから5人と相手や未来の事を考えと行動力する必要があると思った。他の国が困った時は、お互いに利益が出るようにしなくてはいいなと思った。問題が深刻になる前に早めに気づく努力が必要だと思った。

SDGs の視点で世界や日本の諸問題について考える ～時間・空間認識を育てる探究的な学習の展開～

実施校：鳥取大学附属中学校 教諭名：中村 仁

対象	第2学年	単元名	SDGs の視点で世界や日本の諸問題について考える
科目	社会科	目標	【単元を貫く目標】 地球市民として世界や日本の諸問題に関心を持ち、SDGs の視点で課題 解決に向けて主体的に考える。
時間	9時間		
参考資料	アイデアブック 環境省(2019) プラス チックスマートとは 等		

期待できる学習効果

- ・その1 世界の現状や地域の現状を知り、地球規模で物事を見て、自分にできることは何か考えて行動できる。(Think Globally, Act Locallyの精神)
- ・その2 親子で環境問題について学習する機会を設けることで、家庭でできるSDGsの取り組みついて関心が高くなる。

授業内容

改訂学習指導要領の前文に「持続可能な社会の創り手となることが求められる」と明示された。また、2016 年 12 月の中央教育審議会答申に指導内容の示し方の改善として、時間、空間、相互関係などの視点に着目して考察・構想していくといった社会的な見方・考え方の必要性が述べられた。そこで、SDGs の視点を取り入れた学習内容の展開と、時間・空間認識を育てる探究的な学習の展開を意識した、主体的・対話的で深い学びのある授業をつくることにした。

【研究の方法】

- ①「Think Globally, Act Locally」の考え方をもとに、SDGs の 17 の目標を意識した、主体的に課題を解決しようとする態度の育成を図るために、一単元を丸ごと SDGs の視点を取り入れた授業の構成を考えた。
- ②中央教育審議会答申に、指導内容の示し方の改善として、時間、空間、相互関係などの視点に着目して考察・構想していく必要性が述べられた。そこで、社会的な見方・考え方を働かせた例として提示された考察・構想をもとに、授業を組み立てることにした。

【協力団体とコラボした授業づくり】

- ①一般社団法人 Think the Earth が主催している SDGs for School の協力をいただき、『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』を 40冊提供していただいた。この単元ではアイデアブックを毎時間生徒に配布して、「今日の学習はSDGs の 17 のどのゴールに関係していたのだろうか」と問い、それぞれの目標に対するさまざまな取り組みを紹介した。
- ②鳥取砂丘ビジターセンターの協力をいただき、平成 31 年 3 月 25 日～4 月 21 日に開催された「山陰海岸海ごみを知ろう ～山陰海岸にはどんなものが流れ着くのかな～」で使用されたパネルを借りて本時に使用した。
- ③学習のまとめとして、落語家による「海の温暖化とマイクロプラスチックごみ問題」の出前授業を開催した。これは、日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の取り組みとして、日本の伝統芸能である落語を通じて海洋問題について考える「海の親子寄席プロジェクト」を活用したものである。本学年の保護者と生徒がともに環境問題について学ぶ機会をつくり、SDGs の取り組みについて関心を高める機会と考えた。

SDGs の視点で世界や日本の諸問題について考える ～時間・空間認識を育てる探求的な学習の展開～

実施校：鳥取大学附属中学校 教諭名：中村 仁

授業の様子



写真1 「SDGsの視点でマイクロプラスチック問題を考える」授業風景



写真2 「SDGsの視点でマイクロプラスチック問題を考える」授業風景

子どもたちの反応・感想

。ヒトが原因で起ったことは、全て人に返ってくる。
それは、良いことも悪いことも言える。ゴミを捨てれば、暑くなり、魚も食べられなくなるが、対策をすれば、少しづつでも良くなり、おいしい魚がいつまでも食べれる。
。国や、組織を動かすためには、1人1人が意識を高めなければ、いけないと思った。

今のままの生活をしていけば、住むことができなくなってしまう。僕達一人ひとりがどのような行動をとるかによって決まってくる。プラスチックの使用量を減らしたり、ポリ捨てをしないなど身近なことから今の生活を維持できるように努力したいと思いました。

エコバッグとか ストローとか ぼう

今日からでもできるの？ やってみます。



2050年の海・温暖化事情がほんとに酷くなるかもしれないと思うので、何か協力できること自分ができることをしていこうと思ってる。2050年の地球を助けるための行動がしたいです。これから地球の環境系のニュースや事情に目を向けていきたいと思います。

自分か思っているより、地球の変化が進んでいてびっくりしました。講師の方でつれていのように衣服や素材をオーガニックにしたり、マイバックの使用をしたりして自分なりに行動しています。

今のままの生活をしていけば、住むことができなくなってしまう。僕達一人ひとりがどのような行動をとるかによって決まってくる。プラスチックの使用量を減らしたり、ポリ捨てをしないなど身近なことから今の生活を維持できるように努力したいと思った。

SDGsのことや、マイクロプラスチックなどの海の問題について分かってはいたけれど、あまり自分事としてとらえていなかったり、実際にあると一つ一つがあまり実感がわいていなかったの。今回知れてよかったです。

宿題では、楽しく落語のことに、ついて、知れて楽しかったし、スライドを使った話は、参加型で、おもしろかった。自分が思っていたより地球が深刻な状況であること、驚いた。地球温暖化の進行を色で示すスライドを見て、今の状況も、大変なことになっていくけど、やり遅くない未来。このままの生活が続けていたら、地球温暖化がこんなに進むのかと、怖く感じた。他にも、具体的な統計の数字がたくさん出てきて身をもって、何の対策をしようかといけないうん。だんだん思っている。今は、リサイクルくらしい。対策しかできないけれど、少しづつでも、地球を良くしていきたいと思ってる。

鳥取県の未来を考える

学校名：鳥取大学附属中学校 名前：福田 仁

対象	中学2年生	単元名	中国・四国地方
科目	社会(地理的分野)	目標	その1 身近な地域の課題をとらえ、持続可能な解決策を考える。 その2 SDGsをより身近なものとして捉える。
時間	2時間		
参考資料	・アイデアブック ・未来を変える目標SDGsアイデアブック活用ガイド ・未来の授業私たちのSDGs探究BOOK		

期待できる学習効果

- ・身近な地域への関心を高める。
- ・SDGsをもとに社会的な課題をとらえ、持続可能な解決の方法をアイデアを考えることで多面的・多角的な思考を深める。

授業内容

地理的分野、日本の諸地域の中国・四国地方の学習で授業を行った。

①中国・四国地方の単元構成(全5時間)

- 第1時 自然環境
- 第2時 交通網の整備と人々の生活
- 第3時 瀬戸内と南四国の産業
- 第4・5時 鳥取県の未来を考える

②第4・5時の授業について

中国・四国地方のまとめとして、身近な地域である鳥取県の未来を考える時間を設定した。

昨年度のアジア州での授業実践では、課題を教師が提示して課題解決にむけたアイデアを生徒に考えさせたが、今年度は課題を教師が提示するのではなく、生徒自らが課題を見出し、その解決にむけたアイデアを考える授業とした。これは、主体的に学習課題を解決する意欲や学習したことを実際の生活に生かそうとする態度を養うことをねらいとしている。

鳥取県が抱える課題を見出し、その課題を解決するためのアイデアを考える授業とした。課題解決のアイデアは一時的なことではなく、持続的なものとするを重要視し、持続可能な社会の在り方について身近な鳥取県で考えることで、自分事として捉えさせるようにした。

また、一般社団法人Think the Earthが主催しているSDGs for Schoolから『未来を変えるアイデアブック』を提供していただき、授業のたびに生徒に配布し、どのような取り組みがされているかなどを紹介した。他団体とも連携して、生徒の関心を高めながら、授業を行った。

授業の内容としては、鳥取県の課題を見つけ、その課題を解決するためのアイデアを考え、ワークシートに記入し、提案用のワークシートにまとめるという内容である。

SDGsの視点を持たせるために、ワークシートに17のゴールのどれに関係するかをチェックする欄を設けた。

鳥取県の未来を考える

学校名: 鳥取大学附属中学校 名前: 福田 仁

授業内容2

子どもたちの反応・感想

生徒の多くが鳥取県の課題として、多くが人口減少・過疎化をあげており、そこから派生する産業や経済に関する事象まで広げて捉えていた。

解決のアイデアとしては、鳥取を都市部のように企業や商業施設を誘致し、人を呼び込み、経済を豊かにするなどの内容のものが多くあった。さらには、鳥取県の自然環境の良さを生かしつつ、都市部にはないものを強化していくなどのアイデアも多く見られた。

生徒の様子では、一時的な解決方法ではなく、持続可能なものにするためにどうしたら良いかということで頭を悩ませていた。また、一方を解決しようとしたら、もう一方がうまくいかないなど、試行錯誤しながら、アイデアを考える姿が見られた。

また、鳥取県の状況と似た他県の取り組みを参考にして、課題解決に向かう生徒も見られ、他地域とのつながりを意識し、空間的な広がりを持ち、学習に取り組んでいた。

社会に目を向けよう

学校名:宮城県栗原市立栗駒中学校 名前:矢崎 ひさ

対象	3年	単元名	自分の思いを持ち歩こう～社会問題に目を向けて～
科目	美術	目標	その1 社会問題を自分事と捉え、絵で伝えることができる。 その2 伝えたいことをマークとして表すことができる。 その3 マークに表すための形を精選し表すことができる。
時間	8時間		
参考資料	アイデアブック等 SDGs関連本		

期待できる学習効果

- ・その1 ロゴデザインとして表現することを通して、他者に伝えることを考えさせられる。
- ・その2 日常生活で使う物に自分が考えるメッセージを印刷することで、デザインは伝えるためにある事に気付かせられる。
- ・その3 版にする楽しさと作品を通じた交流が育むことができる。

授業内容

(本題材学習前の課題)本題材間の前に、『社会問題を絵で伝えよう』というポスター題材に取り組んでいた。この学習では、『SDGs』について理解していない生徒がほとんどだったので、スライドでSDGsの概略を紹介して、共通理解を図った。説明後、個々の生徒に分かれて、自分の関心がある内容項目について、アイデアブックを読んだり、関連する17の視点はないか検討し絵に表しまとめた。

- ① 前題材でのポスター制作を受けて、本題材では自分が訴えたいことを単色で形を工夫して表すこと、ロゴマークとして表すために、伝えたいことを明確にすることを考えさせた。そのために、形の単純化や省略、強調することを、ロゴマークを鑑賞しながら、感じ取らせた。
- ② 発想を広げるために、自分が伝えたい内容について、アイデアブックを読み直した。アイデアスケッチでは、マジックや柔らかい鉛筆で図案を描いた。さらに形を単純化させるために、描いた形を円を描くようにまとめたり、描いた形を直線で描いたりしながら、図案の練り直しを行った。図案の練り直しでは、付箋紙に工夫されているところや、さらに手を加えることで良くなるアイデアを伝え合うこと、教師からのアドバイスを盛り込みながら修正を加えていった。
- ③ シルクスクリーンにするために、版下をつくる。
- ④ 単色(黒)に絞り、布に試し刷りを終えてからエコバッグに刷った。版がずれないように、2人1組で刷ることで、2時間で刷ることが可能。
- ⑤ 刷り終えた後に、作品の意図について全体で紹介する機会を設け、鑑賞し合った。

社会に目を向けよう

学校名:宮城県栗原市立栗駒中学校 名前:矢崎ひさ

授業内容2



図1: 下絵の途中



図2: 協力してで刷る



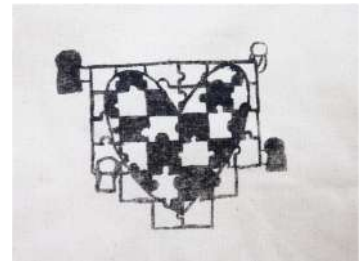
図3: 作品～森林を守ろう～



図4: 作品～海の環境を守ろう～



図5: 作品～男女差別をなくそう～ バッグ全体と作品



子どもたちの反応・感想

- ・この学習の前の題材では、『社会問題を絵で伝えよう』というポスター題材に取り組んでいた。
- ・前時に取り組んだ時と同じテーマで、図案を考えた生徒もいれば、テーマを変えて描いた生徒もいた。しかし、ポスターで表したB3版の大きさから、ポストカードサイズの大きさになったため、描く形をかなり単純化や省略で表すことの必要性に気付き、図案を何度も練り直しをした生徒も多かった。
- ・シルクスクリーンとして、イラストのように描いた形を明確にするために、線の太さ、物の形を省略して表すことに苦戦する生徒も多かった。
- ・シルクスクリーンといった版を通して色をのせる(刷る)感覚をつかむことが難しかった。
- ・シルクスクリーンとシンプルなデザインのため、刷りあがると「かっこいい」「おしゃれ！」といった歓声があがった。
- ・マークとして表したことが、絵でもなくすっきりとした形に納得した生徒が多かった。
- ・友達の描いたマークに着目して、社会に対する思い、友達の価値感に気づいた生徒もいた。
- ・文やポスターのように色ヲ使ったり、写真を貼り付けたりすれば伝わりやすいものでも、形を単純に表して伝えることは難しくもありおもしろいと思った。(生徒の感想)
- ・自分の頭に思い描いていることを形に表し、表現することは難しい。(生徒の感想)

My idea for SDGs

学校名：津山市立北陵中学校

名前：中島 裕子

対象	第2学年	単元名
科目	英語	Let's read3 “環境問題を考える”
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック Goals to Transform Our Future SDGs Idea Book 等 think the earth サイト内情報	(1)SDGs の概要を理解できる (2)英語で“My idea for SDGs”を作成できる。

期待できる学習効果

- ・世界の現状を知ることができる。
- ・持続可能な社会を実現するために自分ができていることを英語で発信できる。
- ・今後の学習でSDGsの視点を取り入れて考えることができる。
- ・校内掲示による他学年への働きかけ。

授業内容

1 教科書で既習の Let's read3 を振り返り、地球の現状について考える。(3分)

2 SDGs の背景を知る (10分)

(1) 2030年がどんな世界になっているのか映像を見て考える。society 5.0 (6'00)

(2) 現在がどんな世界かを考えるサイト指示(4分)

3 めあての確認 (1分)

「英語で“My idea for SDGs”を作成できる」

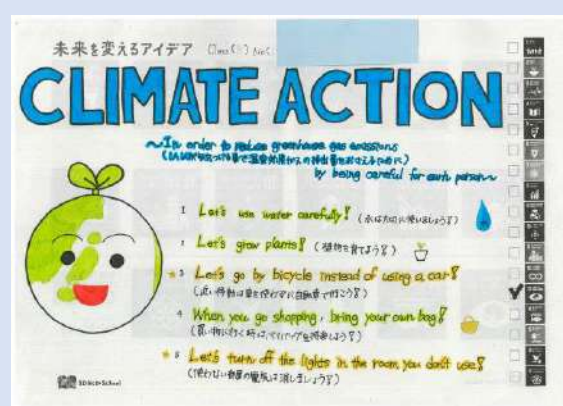
4 世界の課題を知る

英語のSDGsのタイトルを見て、気になったものに○をする。

アイディアブックやタブレットを使用してSDGsの内容を詳しく知る。(19分)

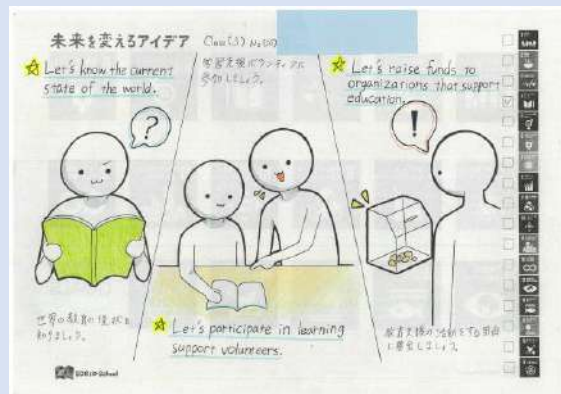
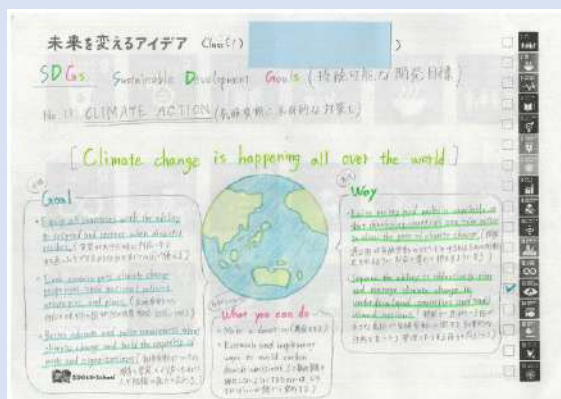
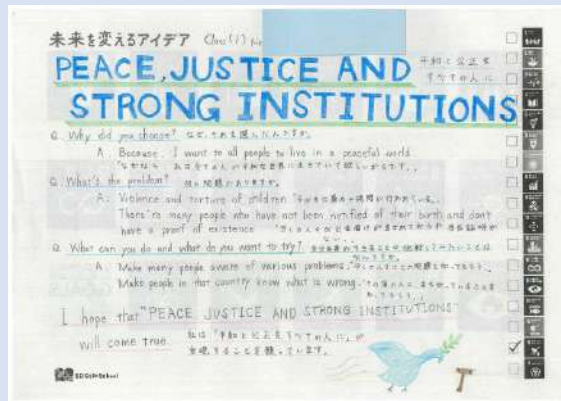
自分にとって重要だと思う課題を考える。(10分)

- ・理由も考えて、ワークシートに書く。



授業内容 2

5 前次の資料と、課題として調べてきた資料を使って “My idea for SDGs” を作成する。(30分)
英語でポスターを作成する。



6 振り返り (10分)
OPPA シート記入

SDGsアクションプラン

学校名: 山形大学附属中学校 名前: 鎌田弘子

対象	中学3学年	単元名	SDGsアクションプラン
科目	技術・家庭科	目標	その1 SDGsについて理解し、生活の中でも取り組む必要性があることに気づく。 その2 よりよい生活や持続可能な社会の実現を目指し、生活の中から問題を見だし課題を解決する。 その3 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて主体的に取り組む。
時間	5時間		
参考資料	アイデアブック SDGs関連の書籍 国連広報センターHP		

期待できる学習効果

- ・その1 家庭分野の学習とSDGsの17目標が関連していることに気づき、よりよい生活を目指すことがSDGs達成をめざすことにつながっていることを実感する。
- ・その2 SDGs達成を自分ごととして捉え、実生活の中から問題を見出して課題を解決し、実践する力を身につける。
- ・その3 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて主体的に取り組むことができる。

授業内容

<学習計画(5時間)>

校時	学習内容
1	SDGsが成立した背景、SDGsの取り組みについて調べる。
2	SDGs達成を目指すために、自分の生活から問題を見いだして課題を設定する。
3	SDGs達成を目指して、生活の中で実現可能な取り組みを考える。
4	SDGs達成を目指して、自分が意識して取り組むことを決定する。
(家庭・地域での実践) ※	
5	SDGsアクションプランについて、実践した結果を評価・改善するとともに、新たな課題を見付け、次の実践に取り組もうとする。

※ 家庭・地域での実践については、令和3年6月から令和4年2月までの期間とし、毎月、実践の振り返りとして成果と課題、次月の取り組みについて各自でまとめた。

SDGsアクションプラン

学校名: 山形大学附属中学校 名前: 鎌田弘子

授業内容2

●2校時

＜SDGs達成を目指した課題設定＞

グループで教科書や資料集、これまでの学習で使用したワークシートから関連するワードを抜き出し、SDGs17目標ごとにそれぞれ分類し、SDGsと家庭科のつながりを調べた。さらに、各グループのシートを共有する場面では、SDGs17目標全てに家庭科の学習が当てはまることが確認できた。それらを踏まえてSDGs達成を目指すために自分の生活をふり返り、問題点を見つけ出し、課題を設定した。

●4校時

＜SDGsアクションプランの場面設定や具体的な方法の検討＞

前時に各自で考えたSDGsアクションプランが同じ人同士がグループを編成し、思考ツールを用いて、「どんな場面で取り組むことができるか」「具体的にどんな取り組みができるか」について、これまでの学習や生活経験をもとに考えを出し合った。その後の発表場面では、各グループのシートを全体で共有し合う活動を行った。

＜SDGsアクションプランを決定する＞

この題材のまとめとして、これまでの学習を振り返り、SDGs達成を目指し、各自が中学校卒業まで意識して取り組むことを決定した。決定する際は、自分の生活のみならず日本や世界に視野を広げて考えることによって、多角的な視点で考えたり、「自分ごと」として捉えたりすることができた。さらに、「それに取り組むことでどんなメリットがあるのか」「その取り組みを続けることで(自分の生活、日本、世界は)どんな未来につながるか」という問いについて考えた。

子どもたちの反応・感想

●1校時(生徒の感想)

・SDGsについては、知っているつもりでも説明することができなかったが、アイデアブックを読んでよく理解できた。また、様々な国や企業では、その地域や人々の暮らしにあった取り組みを工夫していることにとても驚いた。

・アイデアブックを読んで自分が考えもしなかった発想や高い技術による取り組みなど様々あったが、取り組んでいる人の意識の高さ、情熱が伝わってきて、自分も何かできることがないか真剣に考えていきたいと思った。

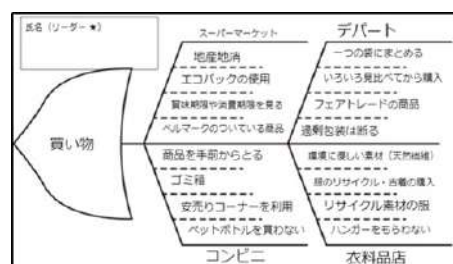
●4校時

(生徒の姿)

・グループ活動では、自分たちの生活経験をすり合わせるところから話し合いが始まった。他者の考えを自分の生活に置き換えながら聞いている生徒の姿が見られた。一方で、生活経験の乏しい生徒にとっては、この活動が生活の視点を広げるきっかけとなった。

(生徒の感想)

・自分が決めたアクションプランが世界や日本とどうつながっているかを意識したことで、自分もSDGs貢献者の1人として責任ある行動が必要だと感じた。



SDGsアクションプラン			
3年 組 番 氏 名			
★自分のアクションプラン		目標	
エシカル消費生活に挑戦!		12	
～未来につながる商品選択～			
★そのアクションプランに決定した理由			
・エシカル消費生活とは、環境や人権に對して十分に配慮された商品やサービスを選択して買いたい。ちよつとした意識で生活にSDGsを加えるもので、様々なことに貢献できるから。 ・エシカル消費で社会的な課題の解決に向けて取り組めるから。(賛同)			
環境問題や地域貢献(リバーナラティブ)			
★そのアクションプランを掲げると、どんな未来につながるか			
・フェアトレードな商品を買うことが当たり前になり、商品を作っている側も幸せになる。 ・水産物や森林などを守るマークの商品が主流となる。			
消費生活が社会問題の解決につないでいく未来			
★自分のアクションプランを生活の中で実践しよう			
月日	成果と課題	気づいたこと・来月の取り組み	印
6/29	・商品を選ぶときに表示をしっかりと見ておいたこと	・来月この取り組みを継続し、実践したい。	意欲して取り組む(印)

これからの暮らしとSDGs

学校名：滋賀県立河瀬中学校・高等学校学校
名前：授業者・河原林聡(報告者・久保川剛宏)

対象	中学3年	単元名	終章 これからの暮らしを考えよう
科目	理科	目標	その1 SDGsについて知ろう！ その2 具体的取り組みを確認しよう！ その3 自分たちが取り組めそうな取り組みを考えよう！
時間	3～4時間		
参考資料	アイデアブック アイディアbookのQR コードのページ		

期待できる学習効果

- ・その1 エネルギー問題や環境保全などの学習において、その問題解決法の具体例をイメージできるようになる。
- ・その2 具体例をイメージすると、自分にもできるかもしれないといった考えが芽生える。
- ・その3 実際に自分にできることを考え始めると、実現可能で効果的なプランにするためには、多くのことを深く広く学ばなければならないことがわかる。

授業内容

1時間目 SDGsを知ろう

SDGsの概念に触れ、具体的な事例を知り、現時点での自分にできそうなことのアウトプットを試みる。この時点では、客観的にみて実現不可能なものや普遍的なものといった生訓なアウトプットであるが、活動を終えた後の振り返りをする要素として必ずアウトプットはおこなう方が良い。

授業展開と生徒の様子

導入10分 質問 SDGsって知ってる？何て読む？何の略？どういう意味？何で必要？等
教員が上記のような質問をおこない。SDGsという概念自体を教授する。数名は知っているという生徒もいるが、深い問いになると答えられない。そこで、具体例を踏まえて学んでいこうという提案をした。

展開1 10分 アイデアブックを見ながら3つ選ぼう！

アイデアブックを配布し、17のゴールと169のターゲットからなること等を教授する。その後、現時点で気になった3つのゴールを選んでくださいと投げかける。参考にアイデアブックの具体例のページを見るようにと指示をする。

展開2 20分 アイデアブックの具体例やQRコードを参考に自分にできそうなことを考えて記入する。

iPadを用いて他の事例を確認しながら、自分や中学生でもできそうな取り組みを挙げてみる。

まとめ 10分 クラスで共有し、次の時間から1つ選んで深めていくことを伝える。

これからの暮らしとSDGs

学校名：滋賀県立河瀬中学校・高等学校学校
名前：授業者・河原林聡(報告者・久保川剛宏)

授業内容2

2時間目 SDGsを深めよう。

回触れたSDGsをより深めていくことを伝える。アウトプットとしてプレゼンテーションをおこなうことを伝える。

授業展開

グループになりSDGsカードと前時間の成果物を用いてざっくばらんに対話しつつ、自分が気になる1つを決める。その1つについてプレゼンテーションを作成する。以下の点に注意することを伝える。

- ① なぜそのゴールが重要なのか？なぜそのゴールを選んだのか？
- ② 単に調べるだけでなく、自分の言葉で説明できるようにする。説明できないことをプレゼンテーションに入れてはならない。
- ③ 現時点で自分や中学生でも出来ることを考え、それがなぜゴールに繋がるのかを入れる。

3時間目 制作時間など ※状況によっては増減する

より自分事化させるためには生徒の活動に質問で介入し、ファシリテーションを心がける。ただし、中学生の発達段階を鑑み、今後に繋がる指導を心がける。

4時間目 SDGsを伝えよう

発表を行い相互評価をする。また、最初におこなったアウトプットと比較し、振り返りを行う。最後に教員から、本当に解決するためには様々な事象を知らねばならず、教科学習もSDGs実現に繋がっているためこれからも一緒に頑張ろうという提案をする。

子どもたちの反応・感想

- ・ SDGsと読み方を自身満々に答えた生徒が、説明してみたと問われ口をつむぐ様子
→ アイディアブックを渡され黙々と読み込む様子
- ・ アイディアブック冒頭の漫画の部分を読み込む様子
- ・ アイディアブックのQRコードだけでなく、その他のページを検索して学ぼうとする様子
- ・ 自分で考えた内容をなんとか伝えようとする様子
- ・ 自分で考えたプランに対し、「それって今もやってるよね？なんで普及していないのかな？」、「それって実現可能かな？皆やりたいって思う？」などと質問をすると、「たしかに...。」と考え込んでしまう。
→ ワクワクも大事だがそれを深め真の意味での自分事にするためにはモヤモヤが必要。ワクワクで終わる授業もエンゲージメントを高める上では重要だが、本当に今後も考え続ける生徒の育成のためには、最終的には、努力したことは認めつつもモヤっとしたすっきりしない感覚をもたらす方が重要であると考え。それがこれからの学習に繋がれば良い。

持続可能でよりよい世界を目指して

学校名: 東京都立南多摩中等教育学校 名前: 橋本瑠美子

対象	中学2年	単元名
科目	理科	第2分野（自然と人間）
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック	その1 SDGsの17の目標やそれぞれの概要、達成度等について学び、世界の課題を自分ごととして捉える その2 各々が選択した1つの目標について調べ学習を行い、その課題のステークホルダーや具体的なアクションを考える その3 卒業生による講話（アクション事例）を参考にしてグループで話し合い、具体的なアクションプランを立てて発表する

期待できる学習効果

- その1 解決困難な課題に向き合うことで、学ぶことの意義や価値に気付かせ、主体的な学びを促進させる
- その2 探究的な学びの場を設定することで、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成する
- その3 グループワークを通して、多様な立場や価値観があることや、一人では解決困難な課題でも、協力し合うことで新たな視点が得られること等に気付かせ、協働する力を養う

授業内容

●全体の流れ

1. 明るい地球の未来のために（1時間）
（自然環境と人間とのかかわり、生物多様性の低下、絶滅危惧種、生態系サービス）
2. 渡良瀬遊水地にまつわるアレコレ【理科×社会コラボ授業】【専門家による講演会】（3.5時間）
（湿地の減少、ラムサール条約、湿地植生の保全、経済発展と保全、治水と保全）
3. コウノトリの絶滅から野生復帰まで（1.5時間）
（野生動物と人間との共生、多様なステークホルダーの協働）
4. SDGs（本時）（2時間）
※1～3は、生物学的視点での学びが主であったため、4では生徒自身が興味を持ったテーマを選択できるようにした

●本時の流れ

1. 予習（宿題）
World's Largest Lesson #Global Goalsの動画（Part1～3）を視聴する
2. 授業（45分間）
 - ①SDGs17の目標やそれぞれの概要、達成度などについて学ぶ
 - ②「アイデアブック」の概説を読み、17の目標のうち最も解決したい（重要だと思う・興味がある）ものを選択する
 - ③「アイデアブック」の事例を参考にして、課題解決のために自身にできそうなプラン（アイデア）をワークシートに書き出す
3. 自宅学習（宿題）
選択した目標に関する情報収集を行い、ワークシートに記入する
スタディサプリで配信したアンケートに回答する（選択した番号を入力⇒グループ分けに使用）

持続可能でよりよい世界を目指して

学校名：東京都立南多摩中等教育学校 名前：橋本瑠美子

授業内容2

●本時の流れ（続き）

4. 授業（45分間）

①卒業生の講話

- ・在学中および現在（大学1年生）の活動紹介、アクションを起こす上で大切なこと

②グループワーク

- ・前時で同じ目標（または関連性の強い目標）を選択した3～4名でグループを形成し、各々が事前に調べたことや考えたアクションアイデアを共有
- ・グループ毎に、具体的なアクションプランを立てる（多様なステークホルダー、5W1Hを意識）

③発表

- ・グループの代表者がアクションプランを発表し、卒業生および教員がコメントする

例）賞味期限が過ぎた食品を安く売ったり、安全な食品は賞味期限が切れても販売してもらうよう「お客様の声」などに書いてスーパーに伝える。賞味期限が近づいている食品を積極的に買う。「TABLE FOR TWO」などの活動を、クラスメイト、地域の人、親戚などに広める。

- ・私たちの学校の給食費を少し値上げして、そのお金を途上国の子の給食代に充てる仕組みを作るよう校長先生に相談する。案が通ったら、親に説明して許可を得る。この取組みをSNSで発信して広める。
- ・スーパーのお惣菜コーナーにあるプラスチックの容器を有料化し、タッパーなどを持参するよう呼びかけてもらう。

良い取組みをしている団体をランキングにしてSNSで発信する。

- ・学校の授業で、他の国のことや、平和の大切さなどについて学ぶ授業（道徳など）を増やしてもらえるように、みんなの意見をまとめて、先生に伝える。
- ・企業のHPに投稿したり、署名活動を行ったりして、商品のパッケージを変えたり、環境に優しい商品であることをもっとアピールするようはたらきかける。私たちは、プラスチックの製品でも、今もっているものは使えなくなるまで使う。新しく買うときは、間伐材を使っているものを優先する。
- ・飛べる二ワトリを開発して、CO2を排出せずに食料が足りない国に二ワトリを届ける。CO2排出量削減のために、「歩くのが楽しくなる靴」を開発する。

子どもたちの反応・感想

- ・すでに学校でやっている活動を地域に広めるとか、SNSで配信をするとか、すごく身近で、すぐにできるような事もたくさんあると分かったので、自分にできることをやっていきたいなと、思いました。
- ・SDGsの事は自分からは少し疎遠かなと思っていたけれど、班で話し合いをしたら、周りに活動をしている人が結構いて、自分にもできる事があると思った。
- ・これらの目標はいくら政治家たちが様々な政策を考えても解決できる範囲には限度があると思った。そのため、国民一人ひとりが意識を変えていく必要があると感じた。
- ・私は今まで、誰かの企画したものを誰かと一緒に行ってききましたが、自分で考えるのは初めてでした。考えてみると、多くのアイデアを出すことができました。私も行動を起こせる人になりたいです。
- ・個人で頑張るには限界があるけど、みんながSDGsに貢献すれば2030年に行けるかなと思った。だから僕も何かできることを見つけていきたい。
- ・1つ物事を解決するためには何か犠牲になってしまうものが出てきてしまてなかなか解決策が見つからなかった。でも、身近なものに目を向けてみると意外といいものがあったりすることも分かった。
- ・SDGsに関して知っていたけど一つ一つの目標に注目したことがなかったのでとても面白かった。また、環境的な視点で見ると自分が、これどうなの？と思っていたやつを班員に言ったら共感してくれた人がいて、共有することの大切さを感じられた。他の目標にも目を向けて日常からできることを見つけていきたい。
- ・誰かがやってくれる、指示を出してくれるのを待つ、ではいけなくて自分から積極的に発信していかなければならないのだと気づきました。
- ・普段みんなと地球の問題を話さないの、みんなもこんなに考えてるんだ！と気づいた！

理社合同で行う「環境と社会」

学校名:板橋第三中学校 名前:輪湖みちよ

対象	第3学年	単元名	
科目	理科・社会	「持続可能な社会に向けて」	
時間	12時間	目標	
参考資料	アイデアブック等	その1 興味・関心に応じた現代社会の課題を設定し、問いをたてて追究することができる その2 理科や社会等、これまでに習得した知識や技能を活用することができる その3 課題の対策やどのような社会を望むのかを考え、わかりやすく伝えることができる	

期待できる学習効果

- ・その1 自らの興味関心に基づく課題設定により、自律的な学習者が育つ
- ・その2 知識や技能を活用しながら探究していくことで、実社会に活かせる知識や技能が身に付く
- ・その3 互いの意見を伝え合うことで、自分と社会との関わり方を体験的に学ぶことができる

授業内容

授業内容

- 1 理科、社会の学習内容を振り返りながら、環境と社会・経済の関わりを考える
- 2 現代社会でおきている課題の現状や原因・背景をイメージマップでとらえる
- 3 自らの興味・関心に基づき、追究する現代社会の課題を設定する
- 4 設定した課題の現状や原因・背景を調べ、問いを立てていく
(インタビュー・書籍・HP)
- 5 問いに対して情報を収集、選択、分析する
- 6 現代社会の課題と対策(自分の行動)をまとめ、発表する

理社合同で行う「環境と社会」

学校名：板橋第三中学校 名前：輪湖みちよ

授業内容2

授業のポイント

理科と社会科の合同授業として実施し、学際的な単元を設定した

アイデアブック記載の企業の方などにインタビューを行い、実社会とつながる場を設定した

生徒自身が興味・関心に基づき、課題設定が行えるよう、十分な対話の時間、思考の時間を設けた

子どもたちの反応・感想

事例を通して、SDGsのつながりに気付く生徒やSDGsが世界中で取り組まれていることに驚く生徒がいた。

「〇〇がわかった」というような調べ学習にとどまらず「〇〇と書いてあった、言っていたが本当かどうか自分でも調べて、資料を基に判断したい」など、自分ごととして追究する姿勢が見られた

ぼくたちのSDGs

学校名: 会津若松市立第二学校 名前: 佐藤久美子

対象	特支1・3年	単元名	ぼくたちのSDGs
科目	自立活動	目標	その1 SDGs活動を通して、個人の障がいの課題を解決することができる。 その2 地域社会や人とのつながりを感じて生活することができる。
時間	60時間		
参考資料	アイデアブック		

期待できる学習効果

- ・その1 個人の社会生活における課題(コミュニケーション、語彙力、状況に応じた言動等)を身につけながら社会に貢献し、つながりを感じることができる。
- ・その2 将来の社会生活において取り残されないよう、障がいを抱えていても自分にできることを考えて実践する力を身につけることができる。

授業内容

1. 【課題把握】 世界のことを知ろう。SDGsとは何だろう。
※アイデアブックの活用
2. 【課題把握】 地域の良さや問題点を挙げよう。
※地域の問題点をSDGsの17項目の観点から考えてみよう。



3. 【実践計画】 自分たちにできることは何か考えよう。
※ 清掃活動、不要な服の活用、コンポスト(調理、畑)

ぼくたちのSDGs

学校名:会津若松市立第二学校 名前:佐藤久美子

授業内容2

4.【実践】

(1)清掃活動(福島民報社主催 SDGs×おもてなし)

※年3回活動

※3回目は生徒会とコラボ

(2)不要な服の活用(裂織)

※作品は学校ボランティアの方にプレゼントした。



(3)段ボールコンポスト

(調理実習後の野菜くずの活用、畑で肥料として活用予定)

※野菜を栽培し、調理実習に利用。その野菜くずを肥料にした。



(4)その他の活動

※新聞バッグ作り、青年商工会議所が選ぶSDGs大賞応募、SDGs未来新聞作成

子どもたちの反応・感想

- 裂織で作った作品をプレゼントしたら、ボランティアの方々も喜んでくださった。大変な作業だったが、余り布の活用をして喜んでもらえることがあることを知った。
- 学校周辺の落ち葉掃きやゴミ拾いを行い、きれいにすることができてうれしかった。地域の方に「いつもきれいにしてくれてありがとうございます」と声をかけていただいた。これからも継続して、住み続けられるまちづくりをしていきたい。
- 段ボールコンポストの土が良い肥料になり、来年の春には畑の肥料になってほしいと思う。そして、その肥料をまくことで畑の土がもっと良い土になり、野菜がたくさん大きくなってほしいと思う。
- 環境破壊を防ぐために、みんなでSDGsの活動を行ってきた。活動を通して、ゴミを捨てずにきれいなまちにすることや、誰ひとり置き去りにされないことの大切さがわかった。これからも、たくさんの人達と協力し合いながら、9年後も50年後もきれいな地球になるように活動していきたい。

持続可能な街を考えて作ってみよう

学校名: 八重山特別支援学校 名前: 小渡晋二郎

対象	小・中学部	単元名	持続可能な街を考えて作ってみよう
科目	総合・自活	目標	その1 持続可能という言葉を知ることができる その2 友達と協力して持続可能なための建物を作ることができる
時間	8時間		
参考資料	スライド アイデアブック等 ワークシート		

期待できる学習効果

- ・その1 児童生徒の興味関心の高いマイクラフトを題材にすることで、意欲を高めることができる。
- ・その2 児童生徒で話し合って建物を考えることで、話し合い活動を行い協力することができる。
- ・その3 SDGsを学びながら協力して建物作りを行うことで、主体的に活動に参加することができる。

授業内容

授業内容

- ・SDGsの3.すべての人に健康と福祉を、7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに、15.陸の豊かさを守ろうについて簡単に学び、マイクラフトで作れそうな持続可能な建物を考える。
- ・どのような建物を作りたいか、制作可能なのかを話し合っ、制作する建物を決める。

授業のポイント

- ・SDGsの簡単な例を示し、自分たちの周りでも行えそうなことを考える。
- ・教師はあまり介入せずに、児童生徒同士の会話ややりとりから制作する建物を決める。

持続可能な街を考えて作ってみよう

学校名: 八重山特別支援学校 名前: 小渡晋二郎

授業内容2

授業内容

- ・マインクラフトEducationEditionを用いて、コントローラーでの操作と、画面タッチでの操作、キーボードとマウス操作を児童生徒に選ばせて、やりやすい操作方法で制作の協力プレイを行う。
- ・児童生徒同士でどのような建物を作りたいか計画し、話し合い協力しながら建物を制作していく。

授業のポイント

- ・話し合いの時間と制作の時間を十分に取れるように計画し、児童生徒の協力して制作する意欲を持たせるようにする。
- ・制作に集中する時間と、話し合い活動を分けて行う場面と、制作しながら自由に話し合える場面を設定する。

子どもたちの反応・感想

- ・もともとパソコンやタブレットの操作が好きな児童生徒たちだったので、授業にはとても意欲的に参加することができた。
- ・SDGsの話でも、聞いたことのある児童生徒が半数はいて、既習の事柄を生かしながら授業に取り組むことができた。
- ・PCのネットワーク環境がうまくいかず、制作の時間が十分に取れないことがあった
- ・児童生徒が病院を制作すると決めた後は、それぞれ役割分担をして内装や外装、階段や床づくり等、スピード感ある制作活動で、すぐに建物を制作することができた。
- ・話し合い活動であまり発言しなかった生徒もいたが、制作の場面では自分の思ったことを建物に表現して制作することができた。
- ・完成した病院をみんなで見た時は、「すごい、いい病院だね」という声が聞こえた。児童生徒が制作した病院は人間だけではなく、動物も同じ病院で治療をするという病院だった。

「SDGs」を調べてまとめよう

学校名: 埼玉県立熊谷特別支援学校 名前: 藤田 聡

対象	中学部1年～3年	単元名	「SDGs」を調べよう。
科目	総合	目標	その1 色々なゴールのテーマがあることを知ろう その2 自分たちの生活でSDGsの取り組みができるものを見つけよう その3 掲示物を完成させよう
時間	14時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 生活の中で、考えることや発言の中に「SDGs」を意識できる。
- ・その2 家庭内で「3R」などを取り組む。
- ・その3 マスクやエコバックを作り、販売をする。

授業内容

「SDGs」を調べて、掲示物を完成させましょう。
ゴールのパネルの中から、調べたいゴールをひとつ選ぶ。iPadで調べ、必要な資料を印刷した。

プリントに記入する項目

- ・調べたゴールの目標は？
- ・ゴールの内容
- ・調べてみて分かったこと知ったことは何ですか？
- ・自分たちの生活の中で何ができるか？
- ・自分たちは何ができるか？
- ・「SDGsの調べ学習」をした感想

肢体不自由の生徒は下半身に障害がある生徒が多く、車椅子で基本は生活をし、介助をしてもらったり、何かをやってもらったりということがほとんどである。生徒が「自分も社会の一員だ」という認識を持って欲しい。」というねらいが根底にあり、自分で何か「自発的」に取り組める物を見つけて欲しいという視点からSDGsを取り入れた。

作業（マスク、エコバック作り）

学校名：埼玉県立熊谷特別支援学校 名前：藤田 聡

作業 エコバックとマスク作り

マスク作りでは、型取りをする→ハサミで切る→ミシンで縫う→紐を通す→検品をする（余った糸を切る、アイロンをかける）という流れを、それぞれ生徒が行う仕事分担に振り分けてローテーションをした。また、エコバック作りでは、デザインをメインに取り組んだ。アクリル絵の具でしぼり染めや花の模様などを下に敷いて鉛筆で下書きを書いた上にエタノール染めをするなど、段階を作り取り組んだ。

「総合」の授業では、SDGsを調べ、「作業」の授業では実際にエコバックやマスクを作り、環境問題などを意識する。



子どもたちの反応・感想

- ・リサイクルすることでなんでも作れるのかなと思いました。買うときに本当に必要な物かを考えることを努力して行きたいです。
- ・汚い水で生活する人たちを初めてみて見てビックリした。
- ・私は恵まれていると思いました。
- ・難しかったけど楽しく学べたことです。
- ・みんなでより良い環境
- ・リサイクルを世界中に広げましょう。



SDG12「食育 ～命をいただくを考える～」

学校名：富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 名前：山崎智仁

対象	中学部1～3年	単元名	「食育 ～命をいただくを考える～」
科目	特別の教科 道徳	目標	○食物には全て命があったことを知り、食物の命をいただくことで自分たちが生きていることが分かる。（知識・技能） ○食物となった命のことを考え、食物に感謝の気持ちをもつことができる。（思考力・判断力・表現力等） ○食物への感謝の気持ちから、食物を大切にしたり食品ロスを防いだりするにはどうすれば良いかを考えることができる。（学びに向かう力、人間性等）
時間	3時間+		
参考資料	写真絵本「うちは精肉店」 絵本「いのちをいただく」		

期待できる学習効果

知的障害特別支援学校に在籍する生徒たちは、普段食べている食肉が牛や豚などの肉ということは理解できている。一方で、食肉がどのようにしてできるかは理解できておらず、「乳をしぼると牛肉が出てくる。」といった発言が聞かれる。それは魚や野菜などでも同様である。そして、食物から「命」をいただいていることを学ぶ学習機会も少なかったため、食物への感謝の気持ちが弱く、見た目で好き嫌いを判断して食べなかったり、おかわりを希望して残したりする姿が見られる。そこで、本単元では、このような生徒たちの実態を踏まえ、食物から「命の尊さ」を学ぶ学習活動を設けることで、食物への感謝の気持ちを高め、食品ロスの軽減に繋がるように取り組むことを考えた。

SDG12「食育 ～命をいただくを考える～」

学校名：富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 名前：山崎智仁

指導計画

	学習活動	指導内容
1次	・「牛」について想起し、発表する。 ・「牛肉」について想起し、発表する。 ・牛がどうやって牛肉になるのかを考え、発表する。	・過去の経験から「牛」について想起する。 ・過去の経験から「牛肉」について想起する。 ・牛がどうやって牛肉になるのかを考える。
2次	・写真絵本「うちは精肉店」の読み聞かせを聞き、「と畜」について知る。 ・読み聞かせの感想をワークシートに記入し、発表する。 ・「牛肉」をこれから食べたいか、食べたくないかを考え、発表する。	・「と畜」や「と畜を仕事とする人」について理解を深める。 ・「と畜」や「と畜を仕事とする人」について、自分の考えをまとめる。 ・「と畜」について理解を深めた上で、「牛肉」を食べたいか、食べたくないか、自分の考えをまとめる。
3次	・「牛肉」以外の食物も、生き物であったことに気づき、その命をいただいていることを知る。 ・絵本「いのちをいただく」の読み聞かせを聞き、食物への感謝の気持ちを高めたり、「いただきます」「ごちそうさま」の意味を知ったりする。 ・食事について、どんなことを考えたかをワークシートに記入し、発表する。 ・食品ロス軽減のためにできることを考え、発表する。	・食物が生きていたことを知り、自分たちは生きるためにその命をいただいていることを理解する。 ・食物への感謝の気持ちを高めたり、「いただきます」「ごちそうさま」の意味理解を深めたりする。 ・今までの学習を踏まえ、食物や食事への自分の考えをまとめる。 ・食品ロス軽減のために自分ができることを考える。

SDG12「食育 ～命をいただくを考える～」

学校名：富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 名前：山崎智仁

単元後の取り組み

本単元後、給食終了時に中学部各学級の残飯量調査を開始することにした。生徒たちは、給食を終えると残飯が入った食缶を計量器まで運び、量を計測している（図1）。残飯量を計測したことで、生徒たちは改めて毎日どれほどの残飯を出しているかに気付き、その量に驚く姿が見られた。そして、「牛が可哀想だね。」「残してごめんなさい。」といったことを話すようになってきた。また、残飯量が少なくなるよう苦手な食べ物も少しは食べられるよう挑戦する生徒の姿も見られるようになってきた。

計測した残飯は生ゴミ処理器に入れ、肥料になるよう生徒が加熱処理をしている。そして加熱処理をした残飯は、作業学習の時間にリサイクル班の生徒が土に混ぜ込み、培養土にしている（図2）。生徒らは、食べ物が土に還ることも知らなかったため、食物連鎖の仕組みや命が循環していることを学ぶきっかけにもなった。その後、培養土を使い、生徒の希望ではネギとパセリを栽培し、収穫を行った。

また、情報（職業・家庭）の学習にて、計測した残飯量から月の1日あたりの平均残飯量を算出し、その結果を生徒がプログラミングツール「micro:bit」にプログラミングし、食育コーナーにて発信している。生徒らは、先月の平均残飯量と比較し、残飯量が減った喜びや増えた悲しみをLEDの発光による絵文字や音楽にて表現するといった工夫を行い、中学部生徒だけではなく、他学部の児童生徒や保護者にも命の尊さや食品ロス軽減を伝えようとしている（図3、4）。活動当初は、教師の提案に受け身気味の生徒たちであったが、活動を通して自ら残飯量を測ったり、



図1 残飯量調査をしている様子



図2 培養土作りの様子



図3 プログラミングした micro:bit



図4 食育コーナー

成果と課題

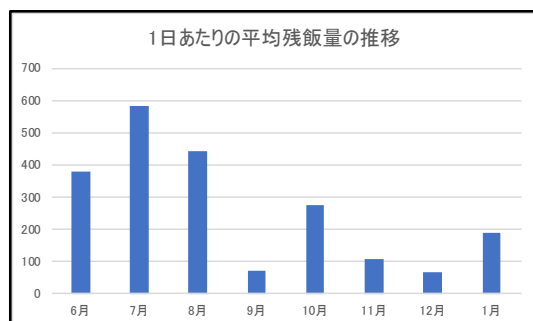


図5 1日あたりの平均残飯量の推移

本取り組みにより、1日あたりの平均残飯量は年度当初に比べて少なくなってきた（図5）。生徒たちには少しずつではあるが命の尊さが根付き、食品ロス削減に向けて自ら働きかけようとするようになってきた。本取り組みは今後も継続して行い、未来に向けて主体的に問題解決に取り組める子どもを育てていきたい。